

第十一章 職員

第六十三條 本學ニ左ノ職員ヲ置ク

- 學 長 一 名
- 教務主任 一 名
- 監 事 若干名
- 教諭及助教諭 若干名
- 囑託教師 若干名
- 生徒 監 若干名
- 舍 監 若干名
- 書 記 若干名

第六十四條 學長ハ本學ヲ統理シ本學ヲ代表ス

第六十五條 教務主任ハ學長ノ指揮ヲ受ケ教務ニ關スル事務ヲ掌ル

第六十六條 監事ハ學長ノ指揮ヲ受ケ庶務會計ニ關スル事務ヲ掌ル

第六十七條 教諭助教諭及囑託教師ハ生徒ニ對スル教授及訓育ヲ擔任ス

第六十八條 生徒監ハ生徒一般ノ監督ヲナス

第六十九條 舍監ハ學長ノ命ヲ承ケ寄宿舍ニ關スル一切ノ事務ヲ處理ス

第七十條 書記ハ上長ノ命ヲ承ケ教務、庶務及會計ノ事務ニ從事ス

補 則

第七十一條 前各條ノ施行上必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム

高野山修道院制規

一七六

第一條 本院ハ本宗寺院徒弟ニシテ事故ニ依リ制規ノ學科ヲ履歷シカタキモノニ對シ特
別試補補任ニ必要ナル傳燈次第及宗乘其他須要ノ學事ヲ授クル所トス

第二條 本院ノ修業年限ヲ壹ケ年トシ其ノ授クル所ノ科目ハ大要左ノ如シ

- 一、普通經典陀羅尼 一、授 戒
- 一、加 行 一、灌 頂
- 一、悉 曇 一、聲 明
- 一、法用儀式 一、一流傳授
- 一、宗 乘 一、漢 文
- 一、普通學

第三條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月卅一日ニ終ル

第四條 學年ヲ左ノ學期ニ分ツ

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期 一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第五條 休日ヲ定ムルコト左ノ如シ

但法會修行日ハ其法會ニ參列又ハ參詣シ加行其他自行中ノモノハ休日ナキモノトス

大 祭 日 日 曜 日 祝 日

涅槃會(二月十五日) 正御影供(三月廿一日)

釋尊降誕會(四月八日) 宗祖降誕會(六月十五日)

每 月 廿 一 日

夏期休業 七月二十日ヨリ九月十日ニ至ル

冬期休業 十二月二十一日ヨリ翌年一月十日ニ至ル

一七七

第六條 本院入學ハ每學年ノ初トシ其資格ハ年齡二十二歲以上ニシテ義務教育修了若クハ之ト同等ノ素養アルモノトス

第七條 入學志望者ハ規定ノ入學願書ニ履歷書及誓約書ヲ添付シ師僧及保證人連署ヲ以テ三月十五日マテニ願ヒ出ツヘシ 但保證人ハ高野山寺院住職ニ限ル

第八條 病氣或ハ事故ニヨリ缺席スルトキハ其當日又ハ翌日中ニ事由ヲ具シ届出ツヘシ 但病氣ノ爲メ缺席七日以上ニ及フトキハ醫師ノ診斷書ヲ要ス

第九條 缺席届出ノ日數ハ一ヶ月ヲ超ユルヲ得ス若シ一ヶ月ヲ經過シ其事故尙ホ止マサルトキハ其都度新ニ其ノ手續ヲ爲スヲ要ス

第十條 願ニ依リ退學セルモノ再ヒ入學ヲ請フトキハ詮議ノ上次學年以後ニ於テ許可スルコトアルヘシ

第十一條 疾病其他不得止事故ニ依リ二ヶ月以上就學スルコト能ハサルモノハ其事由ヲ具シ師僧并ニ保證人連署ヲ以テ願ヒ出テ休學スルコトヲ得

但休學ノ許可ヲ得タルモノハ次學年ノ始ヨリ入學スルモノトス

第十二條 退學セントスルモノハ其事由ヲ詳記シ師僧并ニ保證人連署ヲ以テ願出テ院長ノ指揮ヲ待ツヘシ

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ退學ヲ命ス

- 一、引續キ一學期以上缺席シタル者
- 一、正當ノ事由ナクシテ引續キ一ヶ月以上缺席シタル者
- 一、出席常ナラサル者

第十四條 學年課程又ハ自行ノ修了ハ平素ノ操行學業ノ勤惰及成績ヲ考查シテ之ヲ定ム

第十五條 本院所定ノ科目ヲ修了シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第十六條 本院科目終了者ニシテ特ニ成績優秀ナル者ニハ一等賞又ハ二等賞ヲ授ク

第十七條 其ノ年中ニ懺悔又ハ停學ノ處分ヲ受ケタルモノニハ成績ノ如何ニ係ハラズ賞典ヲ授ケス

第十八條 性行不良ニシテ改悛ノ見込ナキモノ及ヒ成業ノ見込ナシト認めタルモノハ退學ニ處ス

第十九條前條ノ外制規及命令ニ背反シ又ハ風紀ヲ害スルモノハ其輕重ニ從ヒ左ノ各項ニ依リ處分ス

譴責、懺悔、停學

第二十條 退學處分ヲ受ケタルモノニシテ悔悟ノ情狀特ニ著シキ者ハ滿一ケ年以上經過後復學セシムルコトアルヘシ

第二十一條 本院ハ院生ヨリ一定ノ授業料及ヒ自行ニ要スル支具料ヲ徵收ス

第二十二條 院生ハ左ノ各項ヲ服膺シ須臾モ忽緒ニスヘカラス

三寶ヲ信奉シ法器タルヲ期スヘキコト

師長ヲ敬重シ學友ヲ信愛シ其本分ヲ守ルヘキコト

志操堅固、行爲廉潔、身體ノ強壯ヲ心懸クヘキコト

第廿三條 院生ノ制服ハ左ノ如シ

內衣 木綿 白衣

空衣 金巾地 黑色

白袈裟 金巾地

法衣

帽子

律衣 加行又ハ受戒作法ニ着用

第廿四條 院生ハ寄宿舎ニ入舎セシム

第廿五條 起床、食事、外出門限、自修、就床等ニ關スル時限ハ季節ニ應シ院長ニ於テ之ヲ定ム

第廿六條 本院ニ左ノ教職員ヲ置ク

一 院長 一名 本院ヲ統理シ院生ノ依止師トシテ諸般ノ教導ヲナス

院長ハ寶壽院住職ヲ以テ之ヲ充ツ

一 幹事 一名 院長ヲ補佐シ本院經營ノ事務ヲ掌理ス
一能化 若干名、指導若干名 院生ノ指導教授ヲ分擔ス

幹事能化及指導ハ院長ノ推薦ニ依リ座主ノ承認ヲ經ルモノトス

第廿七條 本院成規ノ學事ヲ卒業シタルモノニ對シテハ特別教師試補補任ノ手續ヲナスモノトス

第廿八條 本制規ノ改正變更ハ座主ノ承認ヲ得ヘキモノトス

三密學園制規

第一條 本園ハ眞言密教ノ教義佛教一般ノ要義並ニ必要ナル普通教育ヲ授ケ特ニ宗意安

心ニヨル修養練磨ヲ施スヲ以テ目的トス

第二條 本園ハ香園寺子安講本部之ヲ設置シ其ノ經營ヲナス

第三條 前條ニ要スル經費ハ香園寺子安講本部ノ負擔トス

第四條 本園ニハ普通科本科ノ二科ヲ置ク

第五條 普通科ノ修業期間ヲ六ヶ月トシ僧俗ヲ通シテ眞言密教ノ教義ニ基キ人生最高ノ

目的ヲ明カニシ實社會ニ立チテ意義アル生活ヲナサシメンカタメニ三密ノ行軌ニ隨ヒ須
要ナル鍊磨ヲ施ス

第六條 本科ノ修業期間ハ一ケ年トシ本宗教師トシテ立ツニ必要ナル素養ヲ得セシム

第七條 普通科ニ於テ授クル所ノ課程ハ左ノ如シ

在家勤行法則

本宗常用經典讀誦

眞言宗要義

宗部教科書卷一

弘法大師御傳記 菩提心論達意 三和讃

國語 漢文 作文 習字

授戒 護身法 受明灌頂

第八條 本科ノ學科課程ヲ定ムルコト左ノ如シ

宗乘

得度 聲明 阿字觀 法要儀則

加行 悉曇 傳法灌頂

宗乘 宗乘素讀 安心教示章 菩提心論 般若心經秘鍵 宗部教科書二、三、四、

餘乘

八宗綱要 佛教概論 釋迦牟尼傳 日本佛教史 三教指歸

普通學

國語 漢文 作文 習字

布教科

布教法及實地布教

參考科

宗教發達史 心理學 宗教法制 現代社會運動及社會事業

第九條 本園ノ學期ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、普通科 毎年十月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ヲ以テ終ル

二、本科 毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ヲ以テ終ル其ノ期間六ヶ月ヲ以

テ一學期トシ通シテ二學期トス

第十條 本園ノ休日ハ大祭日及毎月二十一日トス

其ノ他ハ特別ノ法式ヲ行フ場合ノ外休暇ノ制ヲ設ケス

第十一條 本園入園資格ハ左ノ如シ

一、普通科

高等小學卒業以上ノ學力ヲ有シ身體強健ニシテ求道ノ志操堅固ナル者

二、本科

本園普通科ノ課程ヲ修了シ本園ノ詮考ニ合格セルモノ並ニ本園普通科修了程度以上ノ資格アリト認ムル者

第十二條 入園希望者ハ規定ノ願書ニ履歷書及誓約書ヲ添付シ師僧又ハ父兄連署ヲ以テ願ヒ出ツヘシ

第十三條 入園許可ヲ受ケテ尙入園セサルコト一ヶ月以上ニ及フモノハ其ノ許可ヲ取消スヘシ入園後ト雖モ故ナクシテ缺席一ヶ月以上ニ及フモノ亦同シ

但特別ノ事由ニヨリ或期間休學ヲ認メタルモノハ此ノ限リニアラス

第十四條 園生ノ成績評定ハ左ノ方法ニ依ル

一、科目試験 各學科目ニ就キ隨時之ヲ行フ

二、卒業試験 終業期ニ於テ既往ノ學習セル科目ニ就キ三科目以上ヲ選ンテ之ヲ行フ

但論文ヲ以テ之ニ代フルコトアルヘシ

三、操行考查 平素ノ學業動情及性行修鍊ノ程度ヲ考查シ教諭會ニ於テ評定ス

第十五條 評点ハ百点ヲ萬点トシ科目試験並ニ卒業試験ニ於テ各科目四十点以上ヲ得其平均点ト操行考查点トヲ和シテ二除セルモノヲ以テ成績ヲ定メ六十點以上ヲ得ルコトニヨツテ卒業セシム

第十六條 本園卒業者ニシテ成績特ニ優秀ナルモノニハ賞與ヲ授與スヘシ

第十七條 園生ニシテ其性行不良ニシテ修道ノ本義ヲ亂ルモノハ誠告シ又ハ懺悔セシム其情狀重クシテ改悛ノ見込ナキモノ又ハ成績不良ニシテ成業ノ見込ナキモノハ退學ニ處ス

第十八條 園生ノ服裝ハ普通科ニアリテハ袴或ハ通常服ヲ着シ本科生ニ在リテハ木綿通常服ヲ用ヒ行法ノ際ハ相當ノ衣体ヲ用ヒシム

第十九條 園生ハ食費並ニ學事自行ニ要スル支具ノ實費ヲ負担スルモノトス但特ニ其一部分支給スルコトアルヘシ

第二十條 園生ハ凡テ寮舎ニ入舎セシメ當學園ノ信條ヲ旨トシテ自修自律ヲ尊ヒ相互鍊磨ヲ重シテ人格ノ向上ニ努メシム

第廿一第本園ニ左ノ教職員ヲ置ク

- 一、園長 一名
- 一、教務主任 一名
- 一、主事 一名
- 一、教諭 若干名
- 一、囑託教師 若干名

第廿二條 園長ハ香園寺住職之ニ當リ本園經營ノ責ニ任スルト共ニ本園ヲ統理シテ諸般ノ教導ヲナス

第廿三條 教務主任ハ園長ノ指揮ヲ受ケ教務ヲ處理ス

第廿四條 主事ハ園長ノ指揮ヲ受ケ本園ノ事務ヲ處理ス

第廿五條 教諭囑託教師ハ園生ノ教導ヲ分担ス

第廿六條 寮務ハ寮舎ヲ管理シ舍生ノ指導訓練ニ任ス

第廿七條 本園ニハ顧問若干名ヲ置ク

顧問ハ教界ノ碩徳中ヨリ園長之ヲ囑託シ本園ノ指導經營ノ重要事項ニ關シ園長ノ決議ニ參劃スルモノトス

第廿八條 本科ノ課程ヲ卒業セルモノハ本宗教師資格ニ補セラル

第廿九條 本園ニハ別ニ研究科ヲ置キ其期間ヲ一ケ年トシ本科卒業者ニシテ尙ホ止マリテ深ク自他宗ノ教義ヲ研究セントスルモノヲ入園セシム 研究科修了者ハ特ニ檢定試験ヲ受ケテ相當ノ教師資格ヲ得セシム

第三十條 本園ニハ婦人求道者ノ爲メニ婦人部ヲ併置シ一般婦人修道者及尼僧ヲ入園セシム

第卅一條 婦人部ノ教科程ハ本園所定ノ課目ニ準據シ別ニ必要ナル科目ヲ加フ

第卅二條 婦人部ノ制規ハ本制規ヲ適用ス

但寮舎其ノ他ニ關スル取扱ハ別ニ之ヲ定ム

第卅三條 前諸條ノ外必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム

尼衆學園規則

一九〇

第一條 本園ハ眞言宗尼僧ニ家庭布教者トシテノ修養ヲナサシメ且ツ特別試補ニ必要ナル傳燈次第及ヒ宗乘其他須要ノ學科ヲ授クル所トス

第二條 本園ノ授業科目ハ大要左ノ如シ

宗 部

普通經典諸陀羅尼、在家勤行法則、密宗安心教示章、宗部教科書悉曇、聲明、法用儀式布教、

普 通 部

國語及ヒ漢文(講讀、書方、作方)

地理及ヒ歴史(主トシテ佛教ニ關係アルモノ)

家 政 部

家事、裁縫、茶、花、作法、

科外講義

授戒、加行、灌頂、

第三條 學年ハ毎年五月ヨリ七月マテ三ヶ月間ヲ以テ第一期トシ三期ヲ以テ滿了ス

第四條 本園入學時期ハ毎年之ヲ公示ス

第五條 學年學科程又ハ自行ノ修了ハ平素ノ操行學業ノ勤怠及ヒ成績ヲ考查シテ之ヲ定ム

第六條 本園卒業生ハ無試験ニテ特別教師試補ニ補任セララル

第七條 園生ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

一、三寶ヲ信奉シ法器タルヲ期スルコト

一、師長ヲ敬重シ學友ヲ信愛シ其ノ本分ヲ守ルコト

一、志操堅固行爲廉潔婦德ノ涵養ヲ心懸クルコト

第八條 園生ハ寄宿舎ニ入舎スヘシ、寄宿舎ノ規定ハ別ニ之ヲ定ム

第九條 本園ニ左ノ教職員ヲ置ク

- 一、園長一名………本園ヲ統理シ園生ノ依止師トシテ諸般ノ指導ヲナス
- 一、主任一名………園長ヲ補佐シ本園經營ノ事務ヲ掌理ス
- 一、舍監一名………園長及ヒ主任ノ指揮ニヨリ寄宿舎々生ノ監督ニ任ス
- 一、能化及ヒ講師若干名……園生ノ指導教授ヲ分擔ス

第十條 本制規ノ改正變更ハ古義真言宗管長ノ承認ヲ得ヘキ者トス

第十一條 前諸條ノ外必要ノ細則ハ別ニ之ヲ定ム

高野山勸學財團寄附行爲

大正十五年四月二日設立認可、昭和二年五月四日、昭昭六年四月二十四日改正認可

第一章 目的及事業

第一條 本法人ハ大學竝専門ノ教育ヲ施ス學校ノ經營及維持ヲ以テ目的トス

第二條 本法人ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

- 一、大學令ニ依ル高野山大學ノ設立經營
- 二、専門學校令ニ依ル高野山大學専門部ノ設立經營

第二章 名稱及事務所

第三條 本法人ヲ高野山勸學財團ト稱ス

第四條 本法人ノ事務所ヲ和歌山縣伊都郡高野町大字高野山第百參拾貳番地金剛峯寺ニ置ク

第三章 資産及會計

第五條 本法人ノ資産ハ左ノ各號ヲ以テ構成ス

一、設立者金剛峯寺座主ノ寄附スル別紙財産目録記載ノ資産

二、將來受クヘキ寄附ノ資産

三、金剛峯寺法第三十條ニ依ル教學基金

四、所有資産ヨリ生スル果實

五、雜 收 入

第六條 前條寄附ノ資産中特ニ寄附者ノ指定條件アルモノハ其條件ニ從フ

第七條 本法人ノ資産ヲ左ノ二種ニ分ツ

一、基 本 財 産

第五條第壹號乃至第參號ニ依ル資産

但シ第五條第一號ノ資産ハ基本財産トシテ寄附シタルモノニ限ル

二、常 用 財 産

第五條第四號第五號ニ依ル資産

第八條 基本財産ハ之ヲ費消又ハ處分スルヲ得ス 但シ第二條所定ノ事項ニ關シ不時ノ

災害其他止ムコトヲ得サル事件發生シタル場合ハ理事會並評議員會ノ議決ニ依リ金剛峯

寺座主ノ承認ヲ經主務官廳ノ許可ヲ得テ其ノ一部ヲ費消又ハ處分スルコトヲ得

第九條 基本財産中金五拾萬圓ニ達スルマテハ大學基本金トシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ

之ヲ供託ス

此ノ供託金ハ國債證券又ハ地方債券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券ト爲スコトヲ得

基本財産中前項ニ定ムル以外ノ現金ハ確實ナル銀行ニ預入レテ保管スルモノトス

但シ之ヲ不動産又ハ前項ニ準スル有價證券ト爲スコトヲ得

現金ヲ以テ有價證券ヲ購入スル場合ハ其ノ管理方法ヲ併セテ理事會並評議員會ノ議決ヲ

經金剛峯寺座主ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

第十條 常用財産ノ管理及其支出方法ハ評議員會ノ議決ニ依リ之ヲ定ム

第十一條 本法人ノ事業竝經費ニハ常用財産ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條 本法人ノ豫算ハ毎年度評議員會ノ議決ヲ得ルコトヲ要シ決算ハ評議員會ノ認定ヲ經タル上財産目錄ト共ニ金剛峯寺座主竝主務官廳ニ報告スルコトヲ要ス

第十三條 歲計剩餘金ハ基本財産ニ繰入スルモノトス但シ評議員會ノ協賛ヲ經テ次年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第十四條 本法人ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第四章 役員

第十五條 本法人ニ左ノ役員ヲ置ク

總裁	一名
理事	七名
監事	三名

評議員 若干名

第十六條 總裁ハ金剛峯寺座主ヲ推戴ス

第十七條 理事中一名ハ古義真言宗執行長、一名ハ大學學長、他ノ六名ハ古義真言宗執行

二名、金剛峯寺執行一名、大學教職員中ヨリ二名及山内寺院住職中ヨリ一名ヲ選任ス

理事中理事長一名、常任理事二名ヲ置キ執行長ヲ以テ理事長ニ充テ宗務所學務部長及財

務部長ノ二名ヲ以テ常任理事ニ充ツ

第十八條 監事ハ古義真言宗宗會議員、金剛峯寺執行及本法人ニ對シテ特ニ功勞アル者ノ

中ヨリ各一名之ヲ選任ス

第十九條 評議員ハ古義真言宗執行二名、古義真言宗宗會議員二名、第二條所定ノ學校教

職員中二名、山内寺院住職中ヨリ二名及本法人ニ對シテ特ニ功勞アル者ノ中ヨリ推薦ス

第二十條 役員ノ任期ハ他ノ職務ヨリ選任セラレタル者ハ其在職期間トシ其他ノ者ハ各參

年トス

任期中缺員ヲ生シタル場合ハ各前三條ニヨリ夫々補充選任ス但シ補充ニ依リ選任セラレタル者ハ前任者ノ殘存期間トス

役員ハ退任スルモ後任者選任ニ至ルマテハ其職務ヲ行フモノトス

第二十一條 總裁ハ本財團役員並ニ高野山大學長以下教職員ヲ任免ス

前項高野山大學長以下教職員ノ任免ニ關シテハ豫メ文部大臣ノ認可ヲ受クルヲ要ス

第二十二條 理事長ハ役員會ノ議長トナリ且本法人ヲ代表シ事務ヲ統理ス

理事長事故アルトキハ他ノ理事互選ニ依リ其職務ヲ代理ス

常任理事ハ常務ヲ處理ス但シ必要アル時ハ理事會ヲ開ク

第二十三條 監事ハ民法第五十九條ノ職務ヲ行ヒ會計監査上必要アルトキハ金剛峯寺座主ニ上申スルコトヲ得

第二十四條 評議員會ハ本寄附行爲ニ定メタル事項ノ外理事會ノ諮問ニ應シ重要事項ヲ審議ス

第五章 役員會

第二十五條 役員會ヲ分チテ理事會及評議員會トス

第二十六條 理事會ハ必要ニ依リ隨時理事長之ヲ招集ス

理事會ノ議事ハ過半数ニ依リ之ヲ決シ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二十七條 評議員會ハ理事長之ヲ招集ス但シ評議員四分ノ一以上ヨリ會議ノ目的ヲ開示

シテ請求アリタル時ハ臨時評議員會ヲ招集スルコトヲ要ス評議員會ハ評議員二分ノ一以

上出席スルニ非ラサレハ開會スルコトヲ得ス

評議員會ノ議事ハ出席者ノ過半数ニ依リ之ヲ決シ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二十八條 役員會ハ必要ニ依リ文書ヲ以テ諮問スルコトヲ得

附 則

第二十九條 本寄附行爲ハ評議員三分ノ二以上ノ同意及金剛峯寺座主ノ認許ヲ經且主務官

應ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

前項金剛峯寺座主ノ認許ニ就テハ古義眞言宗宗會ノ協賛ヲ經ルコトヲ要ス

第三十條 本法人解散ノ場合ニ於ケル殘餘財産ハ金剛峯寺ヘ寄附スルモノトス

第三十一條 本寄附行爲ニ定メナキ事項ハ總ヘテ民法ノ規程ニ依ル

第三十二條 本寄附行爲施行ニ必要ナル細則ハ評議員會ノ議決ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

高野山勸學財團執務規程

大正十五年六月二十五日告示第十號制定

第一條 高野山勸學財團ハ財團ノ果實、宗務所ノ支出金、高野山大學授業料、寄附金其他ノ收入ヲ一括シ財團ノ名ニ依リテ高野山大學一切ノ經費ヲ支辨ス

第二條 高野山大學ノ決算ハ毎年五月二十日迄ニ同豫算ハ毎年八月三十一日迄ニ本財團所定ノ手續ヲ經テ宗務所ニ提出スルモノトス

第三條 本財團寄附行爲ノ變更若クハ其他ノ重要事項ハ財團規定ノ手續ヲ經テ宗務所ニ提出スルモノトス

第四條 本財團ニ左ノ事務員ヲ置キテ其事務ヲ處理セシム

主任 二 名

書記 若干名

第五條 事務員ハ理事長之ヲ任免ス

事務員ニハ慰勞若クハ手當ヲ支給スルコトヲ得

第六條 本財團執務上ノ諸經費ハ寄附行爲第七條第二號中ニ付評議員會ノ決議ヲ經テ之ヲ定ム

第七條 本財團ノ會計手續ハ財團寄附行爲ニ基キ尙宗務所會計規定ヲ準用ス

補 則

第八條 本規程ハ發布ノ日ヨリ實施ス

高野山大學會計規程

大正十五年六月二十五日告示第十號制定

第一條 高野山大學ハ高野山勸學財團ヨリ交附スル收入ヲ以テ一切ノ支出ヲナスモノトス

第二條 高野山大學ノ歳入歳出ノ豫算決算ハ高野山勸學財團理事長ヨリ同評議員會ニ提出ス

第三條 高野山大學ノ會計法ハ宗務所會計規定ヲ準用ス

第四條 會計ノ年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第五條 前年度ノ歳出決算書ハ毎年五月十日迄ニ次年度ノ豫算書ハ毎年八月二十日迄ニ高野山大學長ヨリ財團理事長ニ提出スヘシ

第六條 大學經營費ハ財團ヨリ毎月二十四日迄ニ平均月額ヲ交附ス

第七條 特別指定ノ寄附金ハ財團理事長ノ認可ヲ經テ受納シ其條件ニ從ヒ使用シ其決算ヲ財團理事長ニ報告スヘシ

第八條 豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足又ハ豫算外臨時必須ノ費用ニ充ツルモノニシテ其支出ノ都度財團理事長ノ認可ヲ經ルヲ要ス

第九條 歳入超過剩餘金アル時ハ之ヲ次年度收入ニ組入ルヘシ

第十條 豫算ニ於テ一年度ニ終ルヘキ工事其他ノ事業ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲メ其年度内ニ支出ヲ終ラサルモノハ財團理事長ノ認可ヲ得テ次年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第十一條 數年ヲ期シテ竣成スヘク繼續費トシテ總額ヲ定メタル事業ハ毎年度ノ仕拂額ヲ財團理事長ノ認可ヲ得テ順次繰越シ使用スルモノトス

第十二條 毎月ノ収支明細書ハ翌月十五日迄ニ財團理事長ニ提出スヘシ

附 則

第十三條 本規程ハ發布ノ日ヨリ實施ス

大學完成委員會規程

大正十五年四月七日教令第八號制定、昭和六年十一月二日教令第六十四號改正

第一條 高野山大學完成委員會ヲ宗務所内ニ置ク

第二條 大學完成委員ハ高野山大學ノ圖書館、講堂、校舍ノ建築、學制其他重要事項ノ協議ニ參與シ其完成ノ實ヲ舉クルモノトス

第三條 大學完成委員會ノ委員ハ拾名トシ宗務所總務、部長御遠忌大法會局總監、金剛峯寺執行、高野山大學長、大學圖書館長、大學教授一名、管長之レヲ特任ス

第四條 大學完成委員會ニ委員長一名、幹事一名、書記一名ヲ置ク

第五條 委員長ハ宗務所學務部長幹事ハ高野山大學監事ヲ以テ之レニ充テ書記ハ委員長之ヲ任用ス

第六條 委員長ハ大學完成事項ヲ研究シ原案ヲ作成シ委員會ノ議長トナル幹事ハ委員長ヲ補佐シテ原案作成ニ參畫シ委員會ノ番外委員トナル書記ハ上長ノ命ニ依リ一切ノ書類ヲ整理ス

第七條 委員ハ部署ヲ分チ其研究實行ニ從事スルコトアルヘシ

第八條 委員ノ任期ハ滿四ケ年トス

第九條 委員會ハ必要ニ應シ委員長ヨリ開會ヲ通告ス
期日ハ會期毎ニ之ヲ定ム

第十條 委員會ニテ決定セシ重要事項ハ管長ノ認可ヲ經テ之ヲ實行スルモノトス

社會事業取扱規程

大正十五年五月十五日教令第十三號制定、大正十五年十二月一日教令第二十一號、昭和二年十二月九日教令第三十一號、昭和六年十一月二日教令第六十四號改正

第一條 本規程ハ宗規宗務規則第二十八條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 學務部ニ社會課ヲ設ケ課長一名囑託若干名ヲ置キ課長ハ主事ヲ以テ之ニ充テ一般社會事業ニ關スル事務ヲ擔任ス囑託ハ課長指揮ノ下ニ事務ニ從事ス

第三條 本宗寺院教會其他所屬團體並ニ個ノ經營人スル社會事業ハ本規程ニ依リ之ヲ取扱フモノトス

第四條 本規程ニ依ル社會事業ノ種類ハ左ノ如シ

一、社會事業ノ統制及指導

一、救貧事業

(救濟救助、罹災民救護、施藥療病、養老等)

一、防食事業

(職業副業ノ紹介、授産興業、簡易食堂及簡易宿泊、住宅供給、低利金融施設、公衆浴場、信用購買組合等)

社會事業取扱規程

一、感化事業 (教誨、釋放者保護、不良兒感化等)

一、兒童保護事業 (孤兒院、兒童愛護運動、病弱兒保護、小兒診療所、海濱山間保養場、姪產婦相談、並ニ預リ、巡回産婆、産具消毒器貸附、純乳配給、兒童相談、小兒家庭委託等)

一、兒童教化事業 (日曜學校、幼稚園、托兒所、保育園、兒童遊園、兒童俱樂部、御伽會、少年少女會等)

一、教化事業 (婦人會、青年處女會、敬老會、修養會、囃風會、節酒禁煙會、早起勤儉會、地方改善、民力涵養、生活改善、團體訓練等)

一、社會教育事業 (圖書館、巡回其他ノ文庫、講演講習會、活動及幻燈寫眞、家事、裁縫、茶、生花、音樂、行儀等ノ指導、其他諸種團參、視察見學等)

一、特殊教育事業 (盲聾啞學校、吃音矯正、低能教育、子守學校、貧兒教育、幼稚女中等ノ夜學、補習學校等)

一、協調事業 (勞資地主小作間ノ協調、階級思想ノ融和、社會的並ニ家庭的爭議ノ和解等)

一、弔祭慰問事業 (礦山勞働者、交通運輸運信其他ノ從業者、病院罹災者等ノ慰問弔祭其他之ニ類スル事業)

一、佛說諸種福田事業 (架橋、道路開修、公衆便所、休息所、ヲ設備シ道樹ヲ植ユル等ノ福祉事業)

第五條 本宗ニ於テ社會事業ヲ經營セントスルモノハ左記各項記載ノ上宗務支所ヲ經テ

本所ニ届出テ登録ヲ受クヘシ

名稱、位置、代表者氏名、創立年月日、事業種類、組織内容、設備概況、會計制度其他必要ナル事項

第六條 登録ヲ受ケタル社會事業ハ毎年一回三月末日迄ニ其經過ヲ本所ニ報告スヘシ

第七條 本宗社會事業ニシテ業績特ニ顯著ナルモノニハ助成金ヲ交附シ之ヲ表彰ス

第八條 本宗管長ハ社會事業ニ對シ特ニ功績アル者ヲ表旌ス

第九條 社會事業ノ調査ニ關シ調査委員ヲ囑託スルコトヲ得

第十條 本宗社會事業指導獎勵ノ爲メ本所ヨリ所員又ハ講師ヲ支所其他組合へ出張セシムルコトアルヘシ

第十一條 本規則ノ施行ニ關シ必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十二條 本規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ實施ス

社會事業取扱細則

昭和六年十一月二日教令第六十五號制定

二一〇

第一條 本細則ハ社會事業取扱規程第十一條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 本細則適用ノ事業ハ本宗教師ノ個人又ハ共同經營ニ屬スル團體ニシテ宗務所ノ登録ヲ受ケシモノニ限ル

但他派トノ共同事業ニ對シテ適用スルコトアルヘシ

第三條 社會事業取扱規程第五條ニ依リ登録セントスルモノハ府縣認可ノ有無ヲ記入スヘシ

第四條 登録ヲ受ケシ本宗社會事業團體ハ毎年三月末日マテニ前年十二月末現在ニテ左記事項ニ關シ明細ニ報告スヘシ嘘偽ノ報告セシモノハ登録ヲ取消スコトアルヘシ

一、所在地、 二、名稱 三、經營主体 四、代表者名 五、事業種目 六、職員數
ト俸給ノ關係、 七、其年度事業概況 八、基本金ノ有無 九、官公私補助金

十、經常費出處 十一、其年度收支決算 十二、次年度豫算

第五條 社會事業取扱規程第七條ニヨリ交付スヘキ助成金ヲ左ノ二種トス

一、通常經營費

一、臨時事業費

第六條 通常經營費補助ハ登録後滿三ケ年ヲ經過シ成績優良ナルモノニ限ル

第七條 通常經營費補助額ハ當該事業ノ經常豫算ノ二割以内トス

第八條 前條ノ補助團體ニシテ左項ノ一ニ該當スルモノハ經常豫算ノ一割範圍ニ於テ増加補助スルコトアルヘシ

一、就業者ノ無給ナルモノ

二、教化事業ニシテ有資格者二名以上ヲ使用セルモノ

三、宮内省、文部省、内務省、司法省、拓務院ヨリ毎年補助金又ハ獎勵金ノ交付ヲ得ルモノ

社會事業取扱細則

二一一

第九條 通常經營費補助ヲ得ントスルモノハ毎年七月末日マテニ左項ヲ具シテ申請スヘシ

- 一、所在地
 - 二、名稱
 - 三、創立年月日
 - 四、經營主体（個人、團體經營、各宗共同）
 - 五、代表者名
 - 六、事業種目
 - 七、職員數並俸給
 - 八、前年度事業成績
 - 九、前年度決算及其年度豫算
 - 十、官公署ノ補助並其支途
 - 十一、基本金
 - 十二、經營方法
- 第十條 臨時事業費ノ補助金ハ登録後滿五ケ年ヲ經過シ宗會ノ協賛ヲ得ルニアラサレハ交付スルコトヲ得ス

第十一條前條ニ依リ補助指令ヲ受ケタルモノハ事業完成後直ニ收支決算ニ寫眞一葉ヲ添付報告スヘシ

事業完成ノ豫定ヲ變更セシトキハ其都度届出ツヘシ補助金ハ完成報告ヲ得テ交附ス但事情ニ依リ事業中途ニ交附スルコトアルヘシ

第十二條 左項ノ一ニ該當スルモノハ補助金ヲ返還セシムルコトアルヘシ

- 一、嘘偽ノ報告ヲナセシモノ

二、毎年三月末ノ報告ヲナサ、ルモノ

三、調査事項ヲ命シタル場合應セサルモノ

四、補助ヲ受ケシ年度内ニ事業ヲ休止セルモノ

五、登録ヲ取消シタルモノ

六、施設目的ニ反シタルモノ

第十三條 登録事業ニシテ成績優良ナルモノハ物品ヲ交附シ表彰スルコトアルヘシ

第十四條 登録事業團體ノ従業員ニシテ効績アルモノハ表彰スルコトアルヘシ

第十五條 教化事業ハ當分ノ間本規程ニ依リ取扱フモノトス

古義真言宗社會事業協會々則

- 第一條 本會ハ古義真言宗社會事業協會ト稱ス
- 第二條 本會事務所ハ和歌山縣高野山古義真言宗宗務所内ニ置ク
- 第三條 本會ハ古義真言宗内ニ於ケル社會事業ノ進展ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第四條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メニ左ノ事業ヲ行フ
 - 一本宗社會事業財團ノ設立
 - 一社會事業ニ關スル研究調査報告
 - 一社會事業ニ關スル講演講習冊子發行
 - 一社會事業従事員ノ養成
 - 一社會事業家大會ノ開催、功勞者ノ表彰
 - 一其他本會ノ目的ヲ達成スルニ必要ナル事項

第五條 本會ハ左ノ會員ヲ以テ組織ス

- 一名譽會員 學識徳望アル者及社會事業ニ功績アル者ノ中ニ就キ理事會ノ決議ヲ經テ會長ヨリ推薦シタル者
- 一特別會員 本會ニ功勞アル者ノ中ニ就キ理事會ノ決議ヲ經テ會長ヨリ推薦シタルモノ又ハ一時金三十圓以上及ヒ年金拾圓ヲ五ケ年繼續シテ納ムル者
- 一正會員 本會ノ趣旨ニ賛同シ毎年金壹圓ヲ納ムル者
- 一贊助會員 本會ノ趣旨ヲ賛シ出資其他ノ方法ニヨリ本會ノ事業ヲ援助スル者

第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 總裁 一名
- 會長 一名
- 副會長 一名
- 理事 若干名

理事中五名ヲ常務理事トス

地方委員 若干名

評議員 若干名

第七條 總裁ハ古義真言宗管長猊下ヲ推戴ス

第八條 會長ハ古義真言宗執行長ヲ推ス

副會長ハ古義真言宗執行ヲ推ス

理事ハ會員ノ中ヨリ會長之ヲ推薦ス

常務理事ハ宗務所、金剛峯寺、御遠忌事務局、高野大學職員中ニ就キ囑託ス

地方委員及評議員ハ會長之ヲ推薦ス

第九條 會長ハ會務ヲ總理シ本會ヲ代表ス

會長ハ理事會、評議員會及總會ヲ召集シ其議長トナル

副會長ハ會長ヲ輔ケ會長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

理事ハ會長ノ命ヲ承ケ會務ヲ掌理ス

地方委員ハ地方ニ於ケル會務ヲ處理ス

評議員ハ豫算其他主要ナル會務ヲ審議ス

第十條 理事及評議員ノ任期ハ各三ケ年トス

第十一條 本會ニ左ノ事務員ヲ置ク

主事 一名

書記 若干名

主事ハ會長及理事ノ命ヲ承ケ會務ヲ處理ス

書記ハ上長ノ命ヲ受ケ事務ニ従事ス

會長ニ於テ必要ト認メタルトキハ囑託員ヲ置クコトヲ得

第十二條 本會ハ必要ニ應シ評議員會及總會ヲ開ク

第十三條 理事會ハ必要ニ應シテ之ヲ開キ豫算ノ範圍内ニテ本會ノ事業ニ關スル事項及臨

時必要ノ事業ヲ議決ス

第十四條 本會ノ資産ハ左ノ各號ヨリ成ル

一 會員ノ醸金

二 補助金及寄附金

三 資産ヨリ生スル果實

四 其ノ他收入

第十五條 本會ノ經費ハ其資産ヲ以テ之ヲ支辨ス

第十六條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十七條 本會ハ必要ニヨリ地方ニ支部ヲ設ク

第十八條 支部ハ支部規定ヲ定メ會長ノ承認ヲ經ルモノトス

第十九條 本會ノ豫算ハ評議員會ノ議決ヲ經テ之ヲ定メ決算ハ其ノ認定ヲ經ルヲ要ス

第二十條 本會々則ハ評議員會ニ於テ出席會員三分ノ二以上ノ同意アルニアラサレハ之ヲ

變更スルコトヲ得ス但文書ヲ以テ決議ニ代フルコトヲ得

第廿一條 本會則ノ施行ニ必要ナル細則ハ會長ニ於テ別ニ之ヲ定ム

布教

宗規布教規則

古義眞言宗布教施行規程

大師教會並講社規程

教會教使取扱細則

教會所取扱規程

布教評議會規程

自治布教團規程

高野山大師教會支部並教會所々屬地保管規程

財團法人古義眞言宗布教財團寄附行爲

宗規布教規則

大正拾五年十二月六日教令第二十二號、昭和四年一月三十一日教令第四十一號、
昭和六年三月二十日教令第六十一號修正

第一條 本則ハ宗憲第六章第四十四條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 本宗ノ教會及各種ノ布教ハ教務部ニ於テ統轄シ之ヲ施行スルモノトス

第三條 高野山大師教會ニ關スル場合ニ於テ管長ヲ總裁ト稱シ教務部長ヲ本部長ト稱シ

主事ヲ參事ト稱スルモノトス

第四條 本宗ニ於テ行フ布教ヲ左ノ十種トス

- 一、親 教 管長及總大本山住職隨時ニ之ヲ行フ
- 一、隨化布教 親教ニ隨侍シテ敷衍スルモノ
- 一、特派布教 特ニ必要ノ場合各地ニ派出シテ之ヲ行フ
- 一、駐在布教 軍隊、鐵道、刑務所其他重要ノ地ニ駐在シテ之ヲ行フ

- 一、本部布教 祖廟參詣ノ信徒ニ對シ本部ニ於テ之ヲ行フ
 - 一、巡回布教 毎年一回以上各教區ヲ巡回布教ス
 - 一、擴張布教 専ラ教會擴張ノ爲ニ之ヲ行フ
 - 一、開教地布教 朝鮮、滿洲、臺灣、北海道、樺太及米國其他開教地ニ布教ス
 - 一、映畫布教 映畫ヲ用ヒ隨時ニ之ヲ行フ
 - 一、文書布教 定期又ハ臨時ニ刊行物ヲ頒布ス
- 第五條 布教ニ關スル經費ハ宗費ヲ以テ之ヲ支辨ス但大師教會ノ收支モ亦宗費ニ屬スルモノトス
- 第六條 布教師ハ教務部長ノ推薦ニ依リ管長之ヲ任命シ現任中總テ高野山布教師ト稱スルモノトス
- 第七條 巡回布教區域ヲ分チテ各府縣及北海道ノ四十七教區トス
- 第八條 開教地ニ布教管理者又ハ開教監督ヲ置キ教務部長推薦ニヨリ管長之ヲ任命ス

但支所アル地方ハ支所長ヲ以テ之ニ充ツ

第九條 大師教會支部ハ一教區ヲ以テ一組合トス

但地方ノ實況ニ依リ本部ノ許可ヲ得テ若干組ニ分ツコトヲ得

- 第十條 各組合ニ組長一名副組長若干名ヲ置ク組長副組長ハ其組合ニ於ケル教會支部長ノ互選又ハ支所役員ヲ以テ之ニ充テ管長之ヲ任命ス其任期ハ互選ノトキハ三箇年支所役員ノ場合ハ其任期ニ依ル但場合ニ依リ管長ニ於テ組長副組長ヲ特任スルコトアルヘシ
- 第十一條 各組ハ組合規約ヲ設ケ本部ノ許可ヲ受クヘキモノトス
- 第十二條 大師教會支部以外ニ本部直屬講社ヲ組織シ支部ニ準シ之ヲ取扱フモノトス
- 第十三條 本宗寺院ハ大師教會支部又ハ講社ヲ設置シ其檀信徒ヲ教會員タラシムヘキモノトス

但他宗派寺院其他必要ノ場所ニ教會支部又ハ講社ヲ設置スルコトヲ得

第十四條 布教師養成ノ爲メ毎年布教講習會ヲ開設ス

但必要ニ應シ地方ニ於テ開設スルコトアルヘシ

第十五條 布教上ノ施設練議及教會補任ノ詮衡ノ爲メ布教評議員ヲ置ク

第十六條 布教評議員ハ七名トシ左記各項ニ依リ管長之ヲ特任ス

其任期ヲ四ケ年トシ別ニ任期アルモノハ其任期ニ依ル

一、宗務所總務

一名

一、教務部長

一名

一、現任布教師中ヨリ

二名

一、本宗教師中ヨリ

三名

第十七條 本宗寺院其他教會支部ニ於ケル各自ノ布教ハ教會本部ノ布教方針ニ順應スヘキモノトス

第十八條 本則施行ニ關シ必要ナル細則ハ教令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第十九條 本宗ニ於テ行フ布教ハ高祖御遠忌修了ニ至ルマテ總テ報恩傳道ト稱シ御遠忌大

法會執行ノ趣旨ヲ宣傳スルモノトス

第二十條 布教評議員數及選出法改正ニ付他ノ法規ノ改廢ニヨリ失職トナル者ノ外現職ノ者ハ其任期間在職スルモノトシ其間ニ於ケル員數ノ超過ハ之ヲ認ムルモノトス

布教施行規程

大正十五年四月七日教令第十一號制定、昭和六年十一月二日教令第六十四號改正

第一章 總 則

第一條 本規程ハ宗規布教規則第十八條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 本宗布教ニ關スル諸般ノ事務ハ教務部長、宗務支所長及開教監督若クハ布教管理
者ノ責任トス

第三條 布教ハ總テ教師ノ任務トシ寺院及教會所ハ總テ布教ノ道場トス

布教施行規則

第四條 支所及開教地ニ於テハ其管内ニ布教機關ヲ設ケ自治布教ヲ爲スモノトス

第五條 寺院並ニ教會所ハ毎月一回以上法筵ヲ開キ布教ヲナシ檀信徒ノ教化ニ努ムルモノトス

第六條 寺院又ハ教會ハ事由ナクシテ布教ノ會所ヲ謝絶スルコトヲ得ス

第七條 宗規布教規則ニヨル各種布教師ヲ總テ高野山布教師ト稱シ教務部長ノ推薦ニヨリ管長之ヲ任命シ其任務ハ總務之ヲ命スルモノトス

第八條 教務部長ハ必要ト認メタル場合職員ヲ派出セシメ布教ノ實行ヲ調査督勵ス

但時宜ニヨリ布教事務者ヲ本所ニ召集スルコトアルヘシ

第九條 布教師ハ毎年十二月末ニ一ケ年ノ實施セル成績ヲ本所ニ報告スヘシ

第十條 高野山布教師ハ實動任務終了ノ都度報告日誌ヲ作り本所ニ提出スルモノトス

第十一條 布教師ハ常ニ三業ヲ慎ミ諸法會及布教道場儀式等ハ嚴肅ニ之ヲ勤ムルモノトス

第十二條 各布教師ノ俸給旅費手當慰勞ハ別ニ內規ヲ以テ之ヲ定ム

第二章 親 教

第十三條 管長並ニ總大本山住職ノ地方巡化ヲ親教ト稱ス

第十四條 親教ニ關スル地域日程ハ教務部ニ於テ作製スルモノトス

第十五條 管長親教ノ隨行員左ノ通り定ム

一、隨 行 長 一 名

一、隨化布教師 若干名

一、常 侍 若干名

但隨化布教師ヲ以テ隨行長ヲ兼スルコトアルヘシ

第十六條 隨行長ハ親教ノ地巡教事務ヲ執掌シ隨化布教師ハ親化ヲ復演シ教導ニ從事ス

第十七條 親教ノ際ハ可成灌頂法會及授戒法會等ヲ兼執スヘキモノトス

第十八條 親教ノ旅費ハ總テ宗務所ニ於テ支辨シ又ハ其地方ノ負擔トス

第十九條 管長親教中巡化事務ノ外處理セサルモノトス

第三章 特派布教

二二六

第二十條 特派布教ハ特ニ必要ナル場合又ハ地方ノ要求ニ應シ各地ニ派出布教スルモノトス

第二十一條 特派布教師ハ示教以上ノ教階ヲ有スル教師中ヨリ其都度之ヲ任命ス

第二十二條 特派布教師ハ其任滿チタル時ハ別ニ辭令ヲ用ヒシテ解任シタル者トス

第二十三條 本所ハ在外軍隊慰問及開教地視察ノ爲メ特派布教師ヲ派遣スルコトアルヘ

第四章 駐在布教

第二十四條 本所ニ於テ必要ト認ムル地方ニ布教師ヲ駐在セシム

第二十五條 軍隊ニ布教師ヲ駐在セシメ其教化ニ努ムルモノトス

第二十六條 鐵道布教ハ鐵道共敬會ニ入會シテ鐵道従業員ノ爲ニ布教スルモノトス

第五章 巡回布教

第二十七條 巡回布教師ハ示教以上ノ教階ヲ有スル教師中ヨリ選任シ其任期ヲ五ケ年トス

但示教以下ノ者ヲ臨時巡回布教師心得トシテ任用スルコトアルヘシ

第二十八條 巡回布教師ハ事故ニヨリ中途ニ解任スルモノノ外任期滿チタル時ハ別ニ辭令ヲ用ヒスシテ解任シタルモノトス

第二十九條 巡回布教師受持區域及巡教日數ハ毎年巡教期ノ初ニ於テ教務部長之ヲ定メ通知ス

但地方ノ情況ニヨリ日數ノ伸縮ヲ命スルコトアルヘシ

第三十條 巡回布教師ハ巡教ノ始ニ於テ支所又ハ組合ト交渉シ巡教日數及會所等ヲ確定シタル上巡教開始以前ニ本所ニ届出若シ日取ノ變更アリタル場合ハ其都度本所ニ届出ツヘシ

但地方支所長若クハ組合長ハ管内寺院以外ニ設置ノ高野山大師教會支部ヲ加算ノ上巡教方針ヲ決定シ日割巡路ヲ定ムルモノトス

第三十一條 巡回布教師ハ本所ノ許可ヲ經スシテ巡回布教ノ施行ヲ中止シ他ノ特請ニ應ス

ルコトヲ得ス

第三十二條 支所長組合長ハ受持布教師巡回終了ノ上ハ其成績ノ良否ヲ本所ニ報告スルモノトス

第六章 擴張布教

第三十三條 擴張布教ニ從事スル者ヲ左ノ二種トス

一、擴張布教師 示教以上ノ者ヨリ選任ス

一、擴張布教師補 補教以上ノ者ヨリ選任ス

第三十四條 擴張布教及擴張布教師補ノ任期ハ三ヶ年トシ事故ニヨリ中途ニ解任スルモノノ外任期滿チタル時ハ別ニ辭令ヲ用ヒシテ解任シタルモノトス

第三十五條 擴張布教師、擴張布教師補受持區域ニ高野山大師教會支部若クハ講社ヲ設置スル爲メ特種布教ヲナスモノトス

第三十六條 擴張布教師、擴張布教師補ハ豫メ受持區域布教日數ヲ定メテ任命スルモノト

ス

第三十七條 擴張布教師ハ布教ノ初ニ於テ毎年支所又ハ組合ト交渉シ日割及會所等ヲ決定シ本所ニ届出スヘシ

第三十八條 支所長組合長ハ年末ニ於テ擴張布教成績ヲ本部へ報告スヘシ

第七章 開教布教

第三十九條 本宗ハ朝鮮、滿洲、臺灣、北海道、樺太及米國其他必要ト認ムル土地ニ開教師ヲ派遣シ布教ニ從事セシム

第四十條 開教地ニ於ケル本宗布教所若クハ高野山大師教會支部ニ期間ヲ定メテ相當ノ補助金ヲ交附スルコトアルヘシ

第四十一條 開教師ニシテ新寺ヲ建立シタル時ハ總大本山ノ直末トシ創建ノ際相當ノ補助金ヲ交附ス

第四十二條 各開教地ニ開教監督若クハ布教管理者一名ヲ置キ教務部長ノ具狀ニ依リ管長

之ヲ任命ス

但北海道ハ宗務支所長ニ於テ開教事務ヲ取扱フモノトス

第四十三條 開教監督及布教管理者ハ開教地規定ヲ定メ管長ノ認可ヲ得ルモノトス
但宗務支所々管ノ開教地ハ當該支所規約中ニ規定スルコトヲ得

第四十四條 開教事務ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一、布教所及大師教會支部創立廢止ニ關スル件
- 一、管下開教師監督ノ件
- 一、管下一般開教(布教所支部)ノ狀況成績調査報告ノ件 (毎年十二月末)
- 一、管下開教師及檀信徒賞罰具狀ノ件
- 一、諸願書伺届書進達ノ件
- 一、前項以外管長宗務所ノ命令若クハ指示事項ニ關スル件

第四十五條 開教監督、布教監理者ハ相當ノ手當ヲ支給スルモノトス

第四十六條 開教師又ハ支部長並ニ主任ニ任命シタル時ハ別ニ定ムル内規ニヨリ赴任旅費
ノ補助ヲナス

第四十七條 開教師(支部長、主任)ニシテ任地變更ノ際ハ監督(管理者)ヲ通シテ管長ノ命
令指揮ヲ受クヘシ

第四十八條 開教監督布教監理者ニシテ事故ノ爲任地ヲ離ル、時ハ教務部長ノ許可ヲ受ク
ヘシ

第八章 映畫布教

第四十九條 映畫布教ハ地方ノ希望ニ應シ左ノ通り施行ス

(イ) 派遣 映畫回数 十回以上

(ロ) 特請

第五十條 本所ニ若干ノ映畫班ヲ置キ一班ハ左ノ班員ヲ以テ組織ス

布教施行規程

班長 一名

技師 一名

第五十一條 本部ノ映畫班ヲ以テ巡回布教ニ代ユルコトヲ得

第五十二條 班員ノ旅費及滞在費並ニ宣傳費、設備費等ハ開催者ノ負擔トス
但派遣ノ場合ハ班員旅費ヲ本部ニ於テ負擔ス

第五十三條 班員ノ俸給慰勞手當ハ内規ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第九章 文書布教

第五十四條 本所ハ文書布教ノ爲刊行物ヲ定期或ハ臨時ニ編纂發行スルモノトス

第十章 布教講習會

第五十五條 布教講習會ハ實地布教ノ技能ヲ練習セシメ布教堪能ノ教師ヲ養成スルタメ毎年本所ニ於テ開設スルモノトス

第五十六條 布教講習會ノ期間及講習科目ハ其都度教務部長之ヲ定ム

第五十七條 布教講習生ハ凡テ宗費講習生トシ定員十名トス

但場合ニヨリ自費傍聽生ヲ許可スルコトアルヘシ

第五十八條 宗費講習生ハ宗立大學卒業生及同等資格アリト認ムル者ノ中ヨリ教務部長之ヲ選抜シ相當ノ學費ヲ支給ス

第五十九條 自費傍聽生ハ教務部長ニ於テ調査ノ上許可シ人員ハ其都度之ヲ定ム

第六十條 布教講習生ハ宗費講習生ト自費傍聽生トヲ問ハス講習ノ終ニ於テ試験ヲ行ヒ成績ニヨリ教務部長ハ相當ノ教階ヲ推薦又ハ具狀スルモノトス

第六十一條 講習生ハ開期中正當ノ事由ナクシテ退會スルコトヲ得ス

但不得止事故アル時ハ教務部長ノ許可ヲ經ヘキモノトス

第六十二條 宗費講習生ニシテ退會スル者ハ支給セル學費ヲ辨濟セシム

但事情ニ依リテ特ニ免除スルコトアルヘシ

第六十三條 講習生ニシテ學業怠慢品行不良ノ者ハ退會ヲ命シ宗費生ハ其給與金額ヲ辨償

第六十四條 講習生ニハ講習ノ終ニ於テ修了証ヲ授與ス
第六十五條 講習會ニ關スル講師及執務者ニハ相當ノ慰勞手當ヲ支給ス

大師教會並講社規程

大正十五年四月七日教令第十一號制定、昭和六年十一月二日教令第六十四號改正

第一章 總 則

第一條 本規程ハ宗規布教規則第十八條ニ依リ之ヲ定ム
第二章 大師教會
第二條 本教會ヲ高野山大師教會ト稱シ本部ヲ高野山ニ置キ支部ヲ各地方ニ置ク
第三條 本宗寺院ニ教會支部ヲ置キ高野山大師教會何寺院支部ト稱ス
第四條 本宗寺院以外ニ教會ヲ設置スル時ハ高野山大師教會何々支部ト稱ス

第五條 教會設置ノ區域ヲ左ノ如ク定ム

- | | | |
|-----|-------|-------|
| 第一 | 東京教區 | 東京府下 |
| 第二 | 京都教區 | 京都府下 |
| 第三 | 大阪教區 | 大阪府下 |
| 第四 | 神奈川教區 | 神奈川縣下 |
| 第五 | 青森教區 | 青森縣下 |
| 第六 | 岩手教區 | 岩手縣下 |
| 第七 | 秋田教區 | 秋田縣下 |
| 第八 | 山形教區 | 山形縣下 |
| 第九 | 宮城教區 | 宮城縣下 |
| 第十 | 福島教區 | 福島縣下 |
| 第十一 | 群馬教區 | 群馬縣下 |

- 第十二 栃木教區 栃木縣下
- 第十三 茨城教區 茨城縣下
- 第十四 埼玉教區 埼玉縣下
- 第十五 千葉教區 千葉縣下
- 第十六 新潟教區 新潟縣下
- 第十七 福井教區 福井縣下
- 第十八 石川教區 石川縣下
- 第十九 富山教區 富山縣下
- 第二十 長野教區 長野縣下
- 第二十一 山梨教區 山梨縣下
- 第二十二 静岡教區 静岡縣下
- 第二十三 愛知教區 愛知縣下

- 第二十四 三重教區 三重縣下
- 第二十五 奈良教區 奈良縣下
- 第二十六 岐阜教區 岐阜縣下
- 第二十七 滋賀教區 滋賀縣下
- 第二十八 和歌山教區 和歌山縣下
- 第二十九 兵庫教區 兵庫縣下
- 第三十 鳥取教區 鳥取縣下
- 第三十一 島根教區 島根縣下
- 第三十二 岡山教區 岡山縣下
- 第三十三 廣島教區 廣島縣下
- 第三十四 山口教區 山口縣下
- 第三十五 德島教區 德島縣下

- 第三十六 香川教區 香川縣下
- 第三十七 愛媛教區 愛媛縣下
- 第三十八 福岡教區 福岡縣下
- 第三十九 大分教區 大分縣下
- 第四十 佐賀教區 佐賀縣下
- 第四十一 長崎教區 長崎縣下
- 第四十二 熊本教區 熊本縣下
- 第四十三 宮崎教區 宮崎縣下
- 第四十四 鹿兒島教區 鹿兒島縣下
- 第四十五 沖繩教區 沖繩縣下
- 第四十六 臺灣教區 臺灣全般
- 第四十七 滿洲教區 滿洲全般

第四十八 朝鮮教區 朝鮮全般

第四十九 北海道教區 北海道廳下

第五十 樺太教區 樺太廳下

第五十一 布哇教區 布哇全般

第六條 一教區ヲ一組合トシ地方ノ情況ニ依リ若干組ニ分ツコトヲ得

第七條 組合規約ヲ設ケ事務執行スル場合ハ管長ノ認可ヲ經ルモノトス

第八條 本宗寺院ナキ地方又ハ教會支部設置シカタキ事情アル地方ハ本部直屬會員トシテ

取扱フモノトス

但入會者二十名以上ニシテ相當ノ世話係アル地方ニ限ル

第九條 本部直屬會員ヲ有スル地又ハ其近接ノ地ニ支部ヲ設置シタルトキハ本部ノ指定ニ依リ其會員ハ設置シタル支部ニ所屬セシム

第十條 教會本部ニ教會教使ヲ置キ専ラ教會擴張ニ從事セシム

第十一條 教會教使ノ取扱ハ別ニ規定ヲ定ム

第三章 教會職制

第十二條 本部ニ總裁一名、本部長一名、參事若干名、參事補若干名、書記若干名ヲ置キ
教務部擔任ノ職員ヲ以テ之レニ充ツ

第十三條 本部職員ノ殘務權限ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一、總裁ハ教會ヲ統理ス
- 一、本部長ハ本部ノ事務ヲ統掌シ執行ノ責ニ任ス
- 一、參事 參事補ハ上長ノ命ヲ受ケ本部事務ヲ處理ス
- 一、書記ハ上長ノ指揮ニ依リ教會及布教ニ關スル事務ニ從事ス

第十四條 組合ニ組長一名副組長若干名ヲ置キ其選任ハ宗規布教規則第十條ニ依ルモノトス

第十五條 組長ハ所管ノ支部ヲ監督シ教會ノ發展ヲ企圖スルモノトス

副組長ハ組長ヲ補佐シ組長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

第四章 支部及教會員

第十六條 支部ハ宗祖ヲ安置シ教義ヲ宣布シ儀式ヲ執行スル所トス

第十七條 支部設置ノ手續ハ左ノ通りトス

- 一 寺院内ニ設置スルモノハ關係人連署ノ上本部へ願出テ管長ノ認許ヲ得ルモノトス
- 一 寺院外ニ設置スル者ハ關係人並ニ家主及ヒ地主連署ノ上願出テ管長ノ認許ヲ得其添書ヲ具シ建物圖面ヲ添へ地方廳へ願出ツヘキモノトス

第十八條 支部ニ規約ヲ設ケ本部長ノ認可ヲ得テ之ヲ施行ス

第十九條 支部ニ支部長一名信徒總代又ハ世話係若干名ヲ置ク

第二十條 支部長ハ本宗教師ヲ以テシ管長之ヲ任命ス

但ニケ寺以上聯合シテ支部ヲ設置シタルトキハ聯合寺院住職中ヨリ一名ヲ選ヒ連署具狀ニ依リ管長之ヲ任命ス

第二十一條 本宗寺院以外ニ設置セル教會ノ支部長ニハ他宗派教師ヲ囑託スルコトヲ得

第二十二條 信徒總代及世話係ハ支部長ノ選定又ハ支部會員互選ニ依リ本部長之ヲ囑託ス

但世話係ノ選定ハ會員約二十名ニ對シ一人ノ割合トス

第二十三條 支部長ハ左項ノ事務ヲ擔當スルモノトス

一、檀信徒ヲ勸誘シテ會ニ加入セシメ毎月廿一日其他ノ日ヲ定メテ説教法話ヲ爲シ宗
意安心ヲ闡明ス

一、會員名簿ヲ備ヘ付ケ入會及繼續者ノ住所氏名ヲ記入シ其都度本部ニ届出スヘシ

第二十四條 信徒總代及世話係ハ支部長ヲ助ケ會務ヲ處理シ支部ノ隆盛ヲ計ルモノトス

第二十五條 本部直屬世話係ハ直屬會員ニツキ第二十三條第二項ノ手續ヲナスモノトス

第二十六條 會員ハ本支部會員名簿ニ登録シ會費ヲ納付スルモノトス

第二十七條 會員タランモノハ其住所姓名ヲ明記シテ支部ニツキ教會員名簿ニ登録ヲ乞フ

ヘシ

但本部直屬會員ハ本部ノ教會員名簿ニ登録ヲ乞フモノトス

第二十八條 會員ハ左ノ教條ヲ信奉スルモノトス

一大師ノ誓願ニヨリ二世ノ信心ヲ決定スヘシ

一四恩十善ノ教ヲ奉シ人ノ人タル道ヲ守ルヘシ

一因果應報ノ道理ヲ信シ異端邪說ニ惑フヘカラス

第二十九條 會員ハ所屬支部ニ參詣シ會員申合せ高祖御廟前ニ參籠スル方法ヲ構スヘシ

第三十條 會員ハ左ノ五種トス

一通常會員 毎年金二十四錢ヲ納付スルモノ

右會費ハ毎年支部長ヨリ本部ニ納付スヘシ

一贊助會員 一時金壹圓ヲ納付セシモノ

但其待遇ハ一時限リトス

一終身會員 一時金五圓以上納付スルモノ

毎年壹圓貳拾錢ヲ五ケ年間納付シタルモノ

十五年間通常會員ノ會費ヲ納付スルモノ

一特別會員 一時金貳拾五圓以上納付スルモノ

一名譽會員 一時金百圓以上納付スルモノ

第三十一條 會員ニハ門票及會員章ヲ附與ス

第三十二條 會員家運長久ノ爲メ高野山奥之院御廟前ニ於テ長日護摩供ヲ修シ毎年一回其

年度會費納付濟ノモノニ御祈禱札ヲ授與ス

但終身會員以上ノ者ニハ毎年一回宛終身御祈禱札ヲ送付スヘシ

第三十三條 會員ハ高野山ニ參詣ノ節左ノ待遇ヲ受クルモノトス

一 本部ニ於テ授戒及血脉ノ親授

一 本山金剛峯寺ノ内拜及靈寶館拜觀料ノ割引

但名譽會員及特別會員並ニ世話係ニ限リ別ニ待遇ヲ與ヘラルヘシ

第三十四條 本教會員ノ篤志志納者ニ對シ左ノ待遇ヲナス

一 弘法大師尊影 一 軸 終身會員

一 弘法大師尊像 一 軀 特別會員

一 弘法大師尊像厨子入 一 軀 名譽會員

一 管長御親筆 一 葉

第三十五條 會員ニシテ死亡ノ節ハ所屬支部並ニ直屬世話係ノ届出ニ依リ過去帳ニ記入シ

遺族ニ弔書ヲ送ル

但名譽會員及特別會員ニ限リ希望者ニハ特ニ法名ヲ授與ス

第三十六條 會員高野山ニ參詣ノ時ハ各自從來ノ所縁ニツキ宿泊案内等ノ便宜ヲ與ヘラル

ヘシ

第三十七條 毎年四月二十一日本部ニ於テ教會員死亡者追善供養ヲ修ス

第三十八條 會員一千名以上三ケ年繼續ノ支部ニハ支部旗ヲ授與ス

但實費ヲ以テ之ヲ授與スルコトアルヘシ

第五章 講社

第三十八條 講社ハ宗規布教規則第十二條第十三條ニ依リ全國各地ニ本部ノ認許ヲ得テ適宜之ヲ設置ス

第三十九條 講社名ハ地方ノ便宜ニ依リ本部ノ認許ヲ得テ之ヲ定ム

第四十條 一講社ハ講員一百名以上ヲ以テ組織スルモノトス

第四十一條 講社ニハ主任(若クハ講元)一名世話係若干名ヲ置ク

第四十二條 主任(若クハ講元)ハ本宗僧侶若クハ篤信者中ヨリ總裁之ヲ任命ス

但任命ニ關シ本部長ハ教區組合長若クハ各地方寺院住職等ニ諮詢スルコトアルヘシ

第四十三條 世話係ハ主任(若クハ講元)ノ願出ニヨリ本部長之ヲ囑託ス

第四十四條 講員ハ每年金貳拾四錢ヲ本部ニ納付スルモノトス

但各講社費ハ適宜ニ決定スルコト

第四十五條 主任(若クハ講元)世話係ノ執務權限ハ支部長及世話係ノ執務權限ニ準ス

第四十六條 講員ノ待遇法ハ支部會員ノ待遇法ニ準ス

第四十七條 講社ハ豫メ高野山内ニ於ケル所縁坊ヲ定ムルモノトス

但講社設置ニ際シ本部交附ノ用紙ニヨリ届出スルモノトス

第四十八條 各講社ノ規約ハ適宜之ヲ定メ本部ノ認可ヲ得テ施行スルモノトス

第四十九條 高野山大師教會本部ニ金剛講ヲ置キ高野山大師教會金剛講ト稱シ詠歌奉讚ノ

信者ヲ以テ講員トス

第五十條 高野山大師教會本部ヲ金剛講總本部ト稱シ各教區金剛講本部ヲ置ク

第五十一條 高野山金剛講總本部ニ左ノ役員ヲ置ク

一、總裁 一名 一、總本部長 一名

一、詠監 一名 一、總本部附教師 若干名

一、總本部附詠歌教師 若干名

詠監ハ總本部長推薦シ總裁之ヲ任命シ總本部附教師及詠歌教師ハ詠監ノ具狀ニ依リ總裁之レヲ任命ス

第五十二條 高野山金剛峯寺座主ヲ以テ總裁トシ高野山大師教會本部長ヲ總本部長トシ以下總本部員ハ教會本部職員ニ於テ各事務ヲ處理ス

詠監ハ總本部長推薦シ總裁之レヲ任命シ詠監教師ハ總本部長之レヲ任命ス

第五十三條 總本部役員職務管掌左ノ如シ

一、總裁ハ高野山大師教會金剛講ヲ統理ス

一、總本部長ハ總本部ノ事務ヲ統掌シ其責ニ任ス

一、詠監ハ金剛講總本部附教師及詠歌教師ノ訓練養成ノ責ニ任シ之レヲ統卒シ詠歌和讚音譜ノ審査制定及其檢定ヲ司リ總本部附教師及詠歌教師ノ等級昇降進退及補任ニ關シ之レヲ總裁ニ具狀スルモノトス

一、總本部附教師及詠歌教師ハ詠歌和讚音譜ヲ教導シ金剛講擴張ニ從事ス

第五十四條 金剛講總本部ニ審議會ヲ置ク

第五十五條 審議會ハ左ノ事項ヲ審議スルモノトス

一、金剛講發展擴張ニ關スル件

一、詠歌道革新獎勵ニ關スル件

一、詠歌和讚音譜ニ關スル重要事項

第五十六條 審議會ニ委員若干名ヲ置キ總本部長ノ特任トス

第五十七條 審議會議長ハ詠監ヲ以テ之レニ充ツ

第五十八條 審議會ハ隨時之レヲ開ク

第五十九條 各教區金剛講本部ノ役員ヲ左ノ通リトス

- 一、總 理 壹 名 一、顧問 若干名
- 一、理事長 壹 名 一、理事 若干名
- 一、評議員 若干名

第六十條 詠歌指導ノ階級ハ各教區金剛講本部ニ於テ總本部ノ認可ヲ得テ補任スルモノトス

但教導補任ノ規定ハ別ニ之レヲ定ム

第六十一條 各教區金剛講ニ於テ所定ノ業ヲ卒ヘタルモノニハ修得証ヲ付與ス

第六十二條 高野山大師教會金剛講總本部ヨリ任命ヲ受クル金剛講役員ハ左ノ通りトス

- 一、總 理 一、理事 長 一、理事 事
- 一、支 部 長 一、講 元 一、總 代 一、世話係

第六十三條 教區本部總理理事支部長講元ハ總裁之レヲ任命シ支部總代及世話係ハ總本部長之レヲ囑託ス

第六十四條 高野山大師教會金剛講總本部ニ於テモ左ノ特階ヲ置キ總裁之レヲ補任ス

- 一、詠 匠 一、直 修

第六十五條 高野山大師教會金剛講員ハ總本部所定ノ徽章ヲ用ヒルモノトス

第六十六條 各教區ニ組織スル金剛講ハ規約ヲ制定シ總裁ノ認可ヲ受クルモノトス

第六十七條 其他講社ニ關スル取扱ハ教會ニ準ス

教會教使取扱細則

大正十五年六月一日認可、昭和六年十一月二日教令第六十四號改正

第一條 本細則ハ大師教會並講社規程第十一條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 教會教使取扱ノ爲メ本部内ニ教務課ヲ置キ各地方ニ教會組合事務所並ニ宗務支所ニ教務支廳ヲ置ク

但地方ノ狀況ニ依リ教務支廳ヲ特設スルコトヲ得此場合ハ當該支所ノ同意ヲ得ルヲ要ス
第三條 本部内教務課ニ主任一名ヲ置キ教務支廳ニ取締一名副取締若干名ヲ置キ本部長之

ヲ囑託ス

但必要ニ應シ本部直轄取締ヲ置キ教務ヲ執行セシムルコトヲ得此場合ハ當該支所ノ同意ヲ得ルヲ要ス

第四條 教務支廳取締ハ左項ノ事務ヲ掌リ管下所屬教使ヲ取締ルモノトス

第一項 教會教使ニ關スル諸願届伺進達ノ件

第二項 義納金徵集ノ件

第三項 褒賞懲罰具狀ノ件

第四項 前項以外本部ノ命令若クハ教務課指示事項ニ關スル件

第五條 教務支廳副取締ハ取締ヲ補佐シ支廳事務ニ従事スルモノトス

第六條 教會教使ハ大師教會支部又ハ講社ヲ設立シ又ハ教會擴張ノ責任ヲ有スルモノトス

第七條 教會教使ハ左ノ四種トス

一、信 教 使

二、願 教 使

三、行 教 使

四、教師試補

第八條 教會教使ハ師僧ヲ定メ得度ヲナシ度牒ヲ受ケタルモノニシテ左項ニ該當スルモノニ限ル

一、信 教 使 教會員百名以上ヲ募集シ三ケ年以上其義務ヲ果サシメタル者

一、願 教 使 教會員二百名以上ヲ募集シ三ケ年以上其義務ヲ果サシメタル者

一、行 教 使 教會員三百名以上ヲ募集シ三ケ年以上其義務ヲ果サシメタル者

一、教師試補 教習所修了ノ者

第九條 信願行各教使ノ命ヲ受ケタルモノハ必ス十善戒ヲ受ケ三日以上廟前ニ參籠スルモノトス

第十條 教會教使ノ補任出願ハ別ニ定ムル書式ニ依リ左ノ禮録ヲ納付スルモノトス

教會教使取扱細則

- 一、信教使 金壹 圓
- 一、願教使 金壹 圓
- 一、行教使 金壹 圓
- 一、教師試補 金拾 五 圓

第十一條 教師試補ハ毎年金貳圓ヲ本部ニ納付スルモノトス

第十二條 教師試補ノ補任ヲ受クルモノハ必ス信、願、行補任ノ順次ヲ經ルモノトス

第十三條 教會擴張上特ニ優秀ノ成績ヲ有シ素行善良ナルモノハ規定ノ會員數並ニ年限未
滿ノモノト雖モ教使ニ補任スルコトヲ得

第十四條 教會教使ハ左ノ服裝ヲ以テ正服トス

- 一、信教使 本部所定三ツ紋 折五條 畧衣
- 一、願教使 本部所定五ツ紋 折五條 畧衣
- 一、行教使 本部所定七ツ紋 折五條 畧衣

一、教師試補 如法衣本部所定 折五條 黒衣

第十五條 左記ノ一ニ該當スルモノハ教使タルコトヲ得ス

- 一、廢疾不具ノ者
- 一、禁個以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 一、家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者

第十六條 教會教使ノ懲誡ハ左ノ四種トス

- 一、戒 告 教會擴張ヲ怠ル者
- 一、譴 責 教會ノ体面ヲ汚ス行爲アル者
- 一、懺 悔 本部長ノ命ニ違フ者

一、教使褫奪 宗憲宗規ヲ遵守セサル者及義納金三ケ年以上滞納セル者

第十七條 教師試補ハ管長之ヲ補任シ信、願、行ノ各教使ハ總裁之ヲ任命ス

第十八條 教會教使ノ補任ヲ受クル者ハ別ニ定ムル書式ニ依リ誓約ヲナスモノトス

第十九條 教師試補ヲ受ケタルモノハ總裁ヨリ加持祈禱允許辭令ヲ附與ス

第二十條 教會教使中教師試補ハ大師會支部長タルコトヲ得ルモ寺院住職タルコトヲ得ス但寺院住職タラントスルモノハ更ニ宗規々定ノ檢定試験ヲ受クルモノトス

第二十一條 教會教使中教師試補ヲ有シ高野山大師教會支部長トナルモ本宗々規ニ定ムル選被選舉權ヲ有セス

第二十二條 教務支廳規約並ニ支廳費豫算ハ本部長ノ認可ヲ得テ施行スルモノトス

第二十三條 義納金ハ毎年二月、八月ノ二期ニ分チ其期月末日ニ半額宛テ教務支廳又ハ直轄取締ニ於テ徵集スルモノトス

教務支廳及直轄取締ハ前項義納金ノ納付ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ教會本部ニ納付スハキモノトス教會本部ハ前項義納金ノ納付ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ領收證ヲ調製シ各教務支廳ニ送付シ各納人ニ交付セシム

第二十四條 前條義納金ヲ正當ノ事由ナクシテ納期後五十日ヲ過キ納付セサルモノハ怠納者トシテ處分ス

第二十五條 教師試補補任ヲ受クルト同時ニ總本山金剛峯寺ニ交衆ノ允許ヲ受ケ猶同時ニ宗祖廟前參籠證下付出願手續ヲ爲スモノトス

第二十六條 眞言宗各派ノ僧侶ニシテ教會教使ニ轉入セントスルモノハ支廳ヲ經テ其手續ヲ爲スヘキモノトス

第二十七條 教會教使養成ノ爲メ大師教會本部内ニ教習所ヲ設置ス

第二十八條 教習期間ハ其都度之ヲ定ム

第二十九條 教習所ニハ所長一名職員若干名ヲ置ク

所長ハ教會本部長ヲ以テ之ニ充テ管長之ヲ任命ス

職員ハ所長コレヲ囑託ス

第三十條 教習科目ヲ頒ツテ左ノ二種トス

一、教相部 諸經常用集三和讃、安心教示章、真言宗綱要、

一、事相部 護身法加行、十八道加行、一尊法、受明灌頂加行祈禱作法切紙傳授、聲

明、悉曇ノ初歩

第三十一條 教習書ニハ度牒授與以上ノモノヲ入所セシム

第三十二條 教習所終了者ハ本部長ヨリ教師試補ヲ具狀スルモノトス

教會所取扱規程

大正十五年四月七日教令第六號制定、大正十五年十一月二十六日教令第二十號改正、昭和二年十二月九日教令第三十二號全改、昭和六年十一月二日教令第六十四號修正

第一條 高野山大師教會支部並ニ説教所出張所布教所等ヲ凡テ教會所ト稱ス

第二條 教會所ヲ左ノ三種トス

第一種 高野山大師教會支部

第二種 普通教會所

第三種 特別教會所

第三條 第一種ハ大師教會並講社規程ニ依リ第二種教會所ハ左ノ各條ニ依リ取扱フモノトス

第四條 教會所ノ本尊ハ宗憲第四條所定ニヨリ特種ノ因縁アルモノハ調査ノ上詮議スルモノトス

第五條 教會所ヲ設置セントスルモノハ省令又ハ地方廳ノ書式ニヨリ左記事項ヲ詳細ニ記入シ地方長官宛本願書ニ副申願ヲ差出スモノトス

一、設置スヘキ理由

二、本尊ノ名稱

三、維持方法

四、擔任教師氏名ト其履歷

教會所取扱規程

五、信徒名簿

六、財産目録

第六條 教會所ハ其設立ニ際シ信者ノ半数以上ヲシテ高野山大師教會々員タル義務ヲ負擔スヘキモノトス

第七條 教會所設置ノ認可ヲ得タルモノハ認可後十日以内ニ實行届ヲ完了スヘキモノトス

第八條 教會所ニハ信者名簿並ニ財産臺帳ヲ置キ増減ノ都度届出ツルモノトス

第九條 教會所ニハ届出ニヨリ寺院ニ準スルモノヲ第三種特別教會所ト稱シ左ノ各條ニヨリ取扱フモノトス

第十條 主任教師ニ對シ本支所選舉ノ選被選舉權ヲ認ム

第十一條 教會所ノ收入ニ應シ宗費ヲ賦課スルモノトス

第十二條 届出後第二回目宗費ヲ納附シタルモノハ選舉權ノ行使ヲ認ムルモノトス

第十三條 寺院ト教會所ヲ甲乙兩區ニ跨リ兼務スルモノ又ハ同一區内ニ於テ寺院ト教會所

トヲ兼務スルモノハ總テ一人一票ニ限ルモノトス

但支所下限リノ選舉ニ付他支所下兼務スルモノハ此ノ限りニアラス

第十四條 届出ノ教會所ハ其所在地支所ノ所管トス

但十ヶ所以上ノ地方ニアリテハ組合事務所ヲ設クルコトヲ得

第十五條 必要ノ細則ハ別ニ之ヲ定ム

布教評議會規程

大正十五年四月七日教令第十一號制定、昭和六年九月十八日教令第六十三號改正

第一條 本規程ハ宗規布教規則第十八條ニヨリ之ヲ定ム

第二條 本會ハ布教施設ノ審議並教階補任ノ詮衡ヲナスモノトス

第三條 本會ハ年一回開催ス臨時必要アル場合ハ此限リニアラス但期日ハ其都度之ヲ定ム

第四條 本會ニ會長一名ヲ置キ總務ヲ以テ之ニ充ツ總務事故アル時ハ評議員互選ニヨリ臨時會長ヲ定ム

第五條 會長ハ議事ヲ整理シ本會ヲ代表ス

第六條 本會ニ幹事一名書記若干名ヲ置キ幹事ハ宗務所主事ヲ以テシ會長ノ指示ニ依リ事務ヲ所理シ書記ハ會長及幹事ノ指揮命令ニヨリ庶務ニ従事ス

第七條 管長ハ必要ニ應シ番外委員ヲ命ス

第八條 評議員ハ何時タリトモ議案ヲ提出スルコトヲ得

第九條 本會ノ決議ハ出席過半数ニ依ルモノトス

自治布教團規程

昭和六年十一月二日教令第六十五號制定

第一條 支所又ハ開教地ニ於テ其管内ニ自治教化團ヲ組織スヘシ

但事情ニ依リニ支所以上聯合ヲ以テ組織スルコトヲ得

第二條 自治布教團ハ教師各自ノ努力ニ依リ布教ノ目的ヲ達成スルニアリ

第三條 本團ハ其ノ目的達成ノ爲左ノ事業ヲ行フ

- 一、管内ニ於ケル各種ノ布教傳道
- 一、地方ニ於ケル社會教化ノ事業
- 一、布教講習會及思想研究會ノ開催
- 一、各寺ニ於ケル例月布教ノ獎勵
- 一、其他目的達成ニ必要ナル事項

第四條 本團ハ其支所又ハ開教地ニ現住スル教師ヲ以テ組織シ之ヲ團員ト稱ス

第五條 本團ニ左ノ役員ヲ置ク

一、團 長 一 名

一、副 團 長 一 名

一、擔任布教師 若干名

一、理 事 若干名

第六條 本團職員ノ任期ハ總テ滿三ケ年トシ補缺就任ノ者ハ其殘任期トス

第七條 團長副團長及擔任教師ハ團員ノ互選ニ依リ管長之ヲ任命ス

理事ハ團員中ヨリ團長ノ推薦ニ依リ管長之ヲ任命ス

第八條 團長ハ團務ヲ統理シ本團ヲ代表ス副團長ハ團長ヲ補佐シ團長事故アルトキハ之ヲ

代理ス擔任教師ハ布教ニ從事シ各種教化事業ヲ擔任シ理事ハ本團ノ事務ヲ執ル

第九條 其管内寺院住職及教會所主任ハ本團ニ加入スル義務アルモノトス

第十條 團長ハ本團ノ事業實施ニ當リ其地ノ支所長及金剛講總理ト聯絡協調ヲ保ツヘシ

第十一條 團長ハ毎年十二月末ニ於テ事業ノ成績及團員ノ勤惰ヲ録シ支所ヲ經テ之ヲ宗務所ニ報告スヘキモノトス

第十二條 團員中成績優秀ナル者ニハ適當ノ表彰ヲ爲スコトアルヘシ

第十三條 本團ニハ特ニ親諭ヲ下附スヘシ

第十四條 本團ノ經費ハ團員ノ負擔金宗務所ノ補助金及特志寄附金ヲ以テ之ニ充ツ

第十五條 團員中其面目ヲ毀損スル行爲アリタル者ハ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ除名スルコトアルヘシ

第十六條 本團ノ總會ハ必要ノ都度團長之ヲ召集ス

第十七條 本團ニ關シ必要ナル細則ハ總會ノ決議ヲ經テ之ヲ定メ管長ノ承認ヲ經ルモノトス

高野山大師教會支部並教會所所屬地保管規程

大正十五年六月二十五日教令第十四號制定、昭和六年十一月二日教令第六十四號改正

- 第一條 本規程ハ宗規布教規則第十八條ニ依リ之ヲ定ム
- 第二條 朝鮮、滿州、其他海外開教地並ニ内地ニ於ケル大師教會支部及教會所々屬地ハ本規程ニ依リ保管ス
- 第三條 大師教會支部及教會所ニ於テ境内地並ニ境外地ヲ所有セントスル時ハ其關係者ノ希望ニヨリ總大本山ノ所有地トシテ所有權ヲ設定シ管轄廳ヘ届置ク可キモノトス
但此場合本山住職ノ返リ證ヲ其支部教會所ヘ交付シ置クモノトス
- 第四條 寺號公稱ノ許可ヲ得タル時ハ總大本山ハ第三條ノ地所ヲ直ニ其寺院名ニ所有權移轉ノ手續ヲ爲スモノトス
- 第五條 前條ノ所有地ハ本山住職及管轄廳ノ許可ヲ得ルニ非レハ賣却讓與質入書入ヲ爲スコトヲ得ス

- 第六條 第三條ノ所有地及其所有地ノ收得物ハ其支部教會所ニ於テ任意適法ニ使用スル事ヲ得
- 第七條 前記第三條第四條第六條ニ於ケル手續並其費用又ハ公租等ハ凡テ當該支部教會所ノ負擔トス

財團法人古義真言宗布教財團寄附行

昭和五年八月四日設立認可

第一章 目的

- 第一條 本財團ハ古義真言宗ノ布教施設ニ必要ナル資産ヲ供給スルヲ以テ目的トス
- 第二章 名稱及事務所
- 第二條 本財團ハ財團法人古義真言宗布教財團ト稱ス

財團法人古義真言宗布教財團寄附行爲

第三條 本財團ノ事務所ヲ和歌山縣伊都郡高野町大字高野山第百參拾貳番地古義眞言宗々務所内ニ置ク

第三章 資産及會計

第四條 本財團ノ資産ハ左ノ各號ニ依リ構成ス

- 一、設立者ノ寄附ニ係ル別紙財産目錄所掲ノ資産
- 二、古義眞言宗事務所其他宗機關ヨリ寄附ニ係ル資産
- 三、一般篤志者ノ寄附ニ係ル資産
- 四、一、二、三號ノ資産ヨリ生スヲ果實
- 五、雜收入

第五條 第四條中一、二、三號ノ資産ヲ基本財産トシ如何ナル場合ト雖モ之ヲ費消スルコトヲ得ス 但寄附者ノ指定條件ニ依ル場合又ハ寄附ニ係ル物件ノ使用又管理上必要ナル處分ハ此限ニアラス

第六條 本財團ノ目的及事務ニ要スル經費ハ第四條中四、五號ノ資産ヲ以テ之ニ充ツ

第七條 基本財産ハ國債證券又ハ地方債券ニ換ヘ日本銀行又ハ確實ナル銀行ニ保護寄托ヲ爲スヘキモノトス

但寄附ニ係ル物件及寄附者ノ指定條件アルモノハ此限ニアラス

第八條 基本財産中前條ノ債券ニ換フルニ不足ナル現金ハ總テ確實ナル銀行ニ預入レ之ヲ保管スルモノトス

第九條 本財團ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十條 毎年度ノ經費收支ハ豫算ヲ以テ之ヲ定メ評議員會ノ協賛ヲ經ヘキモノトス

第十一條 毎年度ノ收支決算及財産目錄ハ監事ノ監査ヲ經テ評議員會ニ報告シ其承認ヲ求ムルモノトス

第十二條 毎年度ノ決算剩餘金ハ評議員會ノ決議ニ依リ之ヲ基本財産ニ編入シ又ハ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第四章 役員

第十三條 本財團ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一、總裁 一名
- 一、理事 三名
- 一、監事 三名
- 一、評議員 若干名

第十四條 總裁ハ古義眞言宗管長ヲ推戴ス

第十五條 理事ハ古義眞言宗總務、教學部長及大師教會本部長ヲ以テ之ニ充テ總務タル理事ヲ理事長トス

第十六條 監事ハ古義眞言宗宗會議員中ヨリ一名、宗務所及總大本山執行中ヨリ一名、宗內寺院住職中ヨリ一名總裁之ヲ選任ス

第十七條 評議員ハ古義眞言宗々務所及總大本山執行中ヨリ三名、宗會議員中ヨリ二名、

布教評議員中ヨリ一名、宗內寺院住職及本財團ノ功勞者中ヨリ若干名總裁之ヲ選任ス

第十八條 役員ノ任期ハ他ノ職務ヨリ選任セラレタル者其在職期間トシ寺院住職及功勞者中ヨリ選任セラレタル者ハ三年トス 但シ再任ヲ妨ケス補缺就任ノ者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十九條 役員ハ滿期ノ後モ後任者就職ニ至ルマテハ其職務ヲ行フモノトス

第二十條 總裁ハ本財團ヲ總監シ役員ヲ任免ス

理事長ハ本財團ヲ代表シ事務ヲ統理シ評議員會ノ議長トナル理事ハ庶務及會計ヲ分擔シ理事長事故アルトキハ總裁ノ指名ニ依リ其一名理事長ノ職務ヲ代理ス監事ハ會計及財産ヲ監査シ評議員ハ本寄附行爲ニ定メタル事項其他重要ナル事項ヲ議決ス

第五章 會議

第二十一條 評議員會 毎年一回之ヲ開キ理事長之ヲ招集ス

但理事長ニ於テ必要ト認メ若クハ監事二名以上又ハ評議員五名以上ノ請求アルトキハ臨

時評議員會ヲ開クモノトス

第廿二條 評議員會ハ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス

但同一事項ニ付招集再度ニ及フモ尙其數ニ達セサルトキハ此限リニアラス

第廿三條 評議員會ノ議事ハ出席評議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ルモノトス

第廿四條 評議員會ニ附議スヘキ事項ニシテ輕微ナルモノ其他理事長ニ於テ臨機ノ處置ヲ執ル必要ヲ認メタル事項ハ文書ヲ以テ諮問シ其決議ニ代フルコトヲ得此場合ハ評議員總員ノ三分ノ二ノ同意ヲ以テ決ス

第六章 附 則

第廿五條 本財團ハ基本財産ノ金額三十萬圓ニ達スルマテハ適當ノ方法ニ依リ專ラ基本財産ノ増殖ヲ計ルモノトス

第廿六條 本財團寄附行爲ハ評議員三分ノ二以上ノ同意及古義眞言宗管長ノ承認ヲ經且主

務官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更スルコトヲ得

前項管長ノ承認ニ就テハ古義眞言宗々會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

第廿七條 本財團寄附行爲ニ定メナキ事項ハ總テ民法ノ規定ニ依ルモノトス

第廿八條 本財團寄附行爲施行上必要ナル細則ハ評議員會ノ決議ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

寺院

宗規寺格昇降規則

別院規程

宗規寺院等級査定昇降規則

宗規寺院關係人規則

宗規寺格昇降規則

大正十五年五月十五日告示第九號、昭和四年十一月二十日教令第四十八號修正

第一條 本則ハ宗憲第七章第五十六條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 寺院ノ寺格ハ從前定マル所ニ依ル

但中本寺以下ノ寺格ハ左ノ標準ニ依ル

一、總大本山乃至準別格本山ノ末寺ニシテ末寺ヲ有スルモノヲ中本寺トシ末寺ヲ有セサルモノヲ格院トス

一、中本寺ノ末寺ニシテ末寺ヲ有スルモノヲ小本寺トシ末寺ヲ有セサルモノヲ孫末寺トス

一、小本寺ノ末寺ヲ曾孫末寺トシ曾孫末寺ノ末寺ヲ玄孫末寺トス

第三條 寺院ノ寺格昇降ハ當該寺院關係者連署ノ上宗務支所ヲ經由シテ請願スヘシ

寺格昇降規則

第四條 左記ノ資格ヲ有シ且相當由緒アル寺院ニ限リ寺格ヲ昇格セシムルコトヲ得
但準別格本山以上ニ昇格スルニハ宗會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

寺 格 一ヶ年收入額

三等格院 參百圓未滿

二等格院 參百圓以上

一等格院 六百圓以上

準別格本山 參千五百圓以上

別格本山 七千圓以上

第五條 特別ノ由緒アル寺院ニシテ宗會ノ協賛ヲ經タルトキハ前條ノ規定ニ拘ラス特ニ
昇格スルコトヲ得

別院規程

大正十五年十二月六日教令第二十四號制定、昭和六年三月二十日教令第六十號改正

第一條 本規程ハ寺格昇降規則第六條住職任免規則第五條及金剛峯寺々法第三十七條ニ
基キ之ヲ定ム

第二條 別院トハ總大本山名ヲ冠シ特別經營ヲナス寺院ヲ云フ

第三條 別院ノ公稱ハ所屬本山ノ承認ヲ得宗會ノ協賛ヲ經テ管長之ヲ認定ス

第四條 別院ノ認定ヲ得ルハ左項ノ内三項以上ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

一、伽藍建造物ノ完備セルモノ

一、境内敷地二千坪以上ノモノ

一、年額收入五千圓以上ノモノ

一、地理上有要ナル位置ニアルモノ

一、特別ノ由緒來歴アルモノ

第五條 管長ノ認定ヲ經ス濫リニ別院名ヲ公稱スルコトヲ得ス

第六條 別院ヲ分チテ左ノ三種トス

一、直屬別院 總大本山直接經營ノモノ

一、公共別院 地方寺院ノ共同經營ノモノ

一、特設別院 創立當初ヨリ特別經營ノモノ

第七條 別院ハ總テ寺法ヲ定メ所屬本山ノ承認ヲ經テ管長ノ認可ヲ得ヘキモノトス其改

正ノ場合亦同シ

第八條 別院ノ關係者ハ當該寺法ニ於テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第九條 直屬及特設別院ノ住職ハ總大本山住職ノ兼務トシ公共別院ニ限リ總大本山住職

又ハ地方寺院代表者ノ兼務トス寺務主監ハ直屬及特設別院ハ所屬本山住職ノ特任トシ公共別院ハ地方寺院ノ推薦ニ依リ所屬本山住職之ヲ任命ス

第十條 別院ハ總テ寺格ヲ附セサルモノトス

第十一條 別院中總大本山住職ニ於テ兼務スル場合ニ限リ住職禮録ヲ徵集セサルモノトス

第十二條 直屬別院中特種ノ理由アルモノハ宗費ヲ賦課セサルコトアルヘシ

第十三條 直屬別院ニ限リ諸願書等總テ支所ノ經由ヲ要セサルモノトス

第十四條 別院ハ前各條ニ定ムルモノ、外一般寺院ト同一ノ取扱ヲ爲スモノトス

第十五條 本規程施行ニ關シ必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム

補 則

第十六條 既設公稱ノ別院中專任住職アルモノハ其住職一代限リ在職ヲ認ムルモ寺法ハ二ヶ年以内ニ之ヲ定メ管長ノ認可ヲ經ヘキモノトス

宗規寺院等級査定昇降規則

大正十五年五月十五日告示第九號、昭和四年一月三十一日教令第四十一號、昭和四年十一月二十一日教令第四十八號、昭和六年三月二十日教令第六十一號修正

第一條 本則ハ宗憲第七章第五十六條ニヨリ之ヲ定ム

第二條 各寺院財産收入ノ査定及等級昇降ハ本則ニ依リ管長之ヲ行フ

第三條 寺院ノ等級ハ實收入ニ依リ左ノ通り之ヲ定ム

特等	一	壹萬五千圓以上
同	二	壹萬圓以上
同	三	七千圓以上
同	四	五千圓以上
同	五	參千五百圓以上
等級		一ケ年實收入額

等地	一	貳千五百圓以上
同	二	貳千壹百圓以上
同	三	壹千八百圓以上
同	四	千五百五十圓以上
同	五	千三百五十圓以上
同	六	千百五十圓以上
同	七	千圓以上
同	八	八百五十圓以上
同	九	七百圓以上
同	十	六百圓以上
同	十一	五百圓以上
同	十二	四百圓以上

寺院等級査定昇降規則

同	十三	參百五十圓以上
同	十四	參百圓以上
同	十五	貳百五十圓以上
同	十六	貳百二十圓以上
同	十七	百九十圓以上
同	十八	百六十圓以上
同	十九	百三十圓以上
同	二十	百圓以上
同	二十一	八十圓以上
同	二十二	六十圓以上
同	二十三	四十圓以上
同	二十四	貳十圓以上

同 二十五 貳十圓未滿

第四條 寺院財產收入ハ左ノ標準ニ依リ實收入ノ査定ヲ爲スモノトス

第一 境内地 墓地

左記ノ收入ハ總テ申告ノ收入額ヲ實收入トス

- 一、境内地賃貸料及境内地產物收入
- 二、境内地建物ノ賃貸料
- 三、飛地境内佛堂ノ收入
- 四、墓地ノ收入

但境内地カ借地ナルトキハ其賃借料ヲ控除ス

第二 田地

田地ハ左ノ各號ヲ標準トシテ別ニ定ムル等級及ヒ實收入表ニ依ル

- 一、其市郡一方里平均人口

寺院等級査定昇降規則

- 二、同田一町歩ト人口トノ割合
- 三、同田一段歩平均米收穫
- 四、田一段歩平均地價

第三 畑地

畑地ハ左ノ各號ヲ標準トシテ別ニ定ムル等級及實收入表ニ依ル

- 一、其市郡一方里平均人口
- 二、同畑一町歩ト人口トノ割合
- 三、同畑一段歩平均麥收穫
- 四、畑一段歩平均地價

第四 宅地

宅地ハ申告額ヲ收入トシ其六割ヲ以テ實收入トス

但申告收入額カ過少ナルトキハ地價ノ一割二分ヲ實收入トス

宅地ニシテ貸家ヲ建設セル部分ハ之ヲ除外スルモノトス

第五 貸家

貸家ハ申告ノ賃貸料ヲ收入トシ其五割ヲ以テ實收入トス

但他人ノ土地ニ建設セルモノハ其賃貸料ノ三割ヲ實收入トス

第六 山林 雑地

山林及雑地ハ左ノ各號ヲ標準トシテ別ニ定ムル等級及實收入表ニ依ル

- 一、其市郡一方里平均人口
- 二、同山林及雑地一町歩ト人口トノ割合
- 三、山林及雑地一町歩平均地價

第七 保安林

保安林ハ申告ノ收入割ヲ以テ實收入トス

第八 保管林

寺院等級査定昇降規則

保管林ハ分收金及副産物收入ノ一ヶ年平均額ヲ收入トシ其三割ヲ以テ實收入ト定ム

第九 檀信徒

東京横濱名古屋大阪神戸ノ五大都市ノ檀徒ハ一戸ニ付金參圓貳拾錢ヲ實收入トス其他ノ檀徒ニアリテハ市部、人口五千人以上ノ町、同未滿ノ町、村落ノ四種ニ區別シ各左ノ標準ヲ以テ別ニ定ムル等級及實收入表ニ依ル

- 一、其市郡一方里平均人口
 - 二、同寺院説教所等ト人口トノ割合
 - 三、同本宗寺院ト淨土宗眞宗日蓮宗寺院トノ割合
 - 四、同人口一萬人ニ對スル犯罪人ノ割合
- 半檀ノ實收入ハ檀徒實收入ノ半額トス
信徒及講社ノ收入ハ申告額ヲ實收入トス

第十 末寺

末寺ノ收入ハ申告ノ收入ヲ實收入トス

第十一 札所 參詣所

四國靈場納經料ハ金參百貳拾圓以上ヲ實收入トス
西國靈場納經料ハ金九拾六圓以上ヲ實收入トス
祈禱料守料廻向供養料其他一切ノ賽物ハ各派聯合最後ニ施行セル財産調査局査定率ヲ降下スルコトヲ得ス

高野山及其他寺院ノ坊料ハ參詣人一人ニ付金六拾錢以上ヲ實收入トス

第十二 蓄積金 有價證券

蓄積金及有價證券ノ收入ハ年利三分ヲ實收入トス

第五條 前條財産又ハ收入ニシテ正當ノ事由アリト認めタルトキハ實收入査定ニ付斟酌スルコトヲ得

第六條 左記ノ各號ニ該當スル場合ハ認定ヲ以テ其實收入ヲ査定ス

寺院等級査定昇降規則

- 一、財産並ニ收入ニ關スル諸届ヲ怠リタル者
 - 二、正當ノ事由ナクシテ從來届出ノ財産並ニ收入ヲ消失又ハ減少シタル者
 - 三、不動産ニシテ市町村役場ヨリ寺有財産トシテ納税シアル旨通牒アリタルモノ
 - 四、當該支所長又ハ開教地監督ヨリ特別ノ事情アリト認メテ具狀シタルモノ
- 第七條 寺院等級ハ前各條ニ依リ査定セル實收入ニ伴フモノトス

附 則

第八條 本則ハ教會所ノ財産並ニ實收入査定ニ準用ス

教會所ノ等級ヲ左ノ十五等ニ分ツ

- | 等 級 | 金 額 |
|-----|---------|
| 一 等 | 五百圓以上 |
| 二 等 | 四百圓以上 |
| 三 等 | 參百五拾圓以上 |

- | | |
|-----|---------|
| 四 等 | 參百圓以上 |
| 五 等 | 貳百五拾圓以上 |
| 六 等 | 貳百貳拾圓以上 |
| 七 等 | 百九拾圓以上 |
| 八 等 | 百六拾圓以上 |
| 九 等 | 百參拾圓以上 |
| 十 等 | 百 圓 以上 |
| 十一等 | 八拾圓以上 |
| 十二等 | 六拾圓以上 |
| 十三等 | 四拾圓以上 |
| 十四等 | 貳拾圓以上 |
| 十五等 | 貳拾圓未滿 |

寺院等級査定昇降規則

第九條 本則施行上ニ際シ生シタル一切ノ疑義ハ各派聯合最後ニ施行セル寺院財産調査ノ事例ニ依リ之ヲ決スルモノトス

寺院等級査定表(大正十五年四月七日教令第五號)

宗規寺院等級査定昇降規則第四條中ノ實收入表ハ左ノ如シ

種別	一段歩實收入	種別	一段歩實收入
一	三、一〇〇〇	一	三、五三〇
二	三、九五〇	二	三、四八〇
三	四、八〇〇	三	三、四三〇
四	五、六五〇	四	三、三七〇
五	六、五〇〇	五	三、三二〇
六	七、三五〇	六	三、二七〇
七	八、二〇〇	七	三、二二〇
八	八、九五〇	八	三、一六〇
九	九、〇五〇	九	三、一〇〇
〇	九、七五〇	〇	三、〇六〇
一	一〇、一〇〇	一	三、〇一〇
二	一〇、一〇〇	二	二、九五〇
三	一〇、一〇〇	三	二、九〇〇
四	一〇、一〇〇	四	二、八五〇
五	一〇、一〇〇	五	二、八〇〇
六	一〇、一〇〇	六	二、七四〇
七	一〇、一〇〇	七	二、六九〇
八	一〇、一〇〇	八	二、六四〇
九	一〇、一〇〇	九	二、五九〇
〇	一〇、一〇〇	〇	二、五三〇

寺院等級査定表

種別	市	部	種別	市	部
二	一、八〇〇	九〇〇	二	一、八〇〇	九〇〇
三	一、七〇〇	八〇〇	三	一、七〇〇	八〇〇
四	一、六〇〇	七〇〇	四	一、六〇〇	七〇〇
五	一、五〇〇	六〇〇	五	一、五〇〇	六〇〇
六	一、四〇〇	五〇〇	六	一、四〇〇	五〇〇
七	一、三〇〇	四〇〇	七	一、三〇〇	四〇〇
八	一、二〇〇	三〇〇	八	一、二〇〇	三〇〇
九	一、一〇〇	二〇〇	九	一、一〇〇	二〇〇
一〇	一、〇〇〇	一〇〇	一〇	一、〇〇〇	一〇〇
一一	九〇〇	〇	一一	九〇〇	〇
一二	八〇〇	〇	一二	八〇〇	〇
一三	七〇〇	〇	一三	七〇〇	〇
一四	六〇〇	〇	一四	六〇〇	〇
一五	五〇〇	〇	一五	五〇〇	〇
一六	四〇〇	〇	一六	四〇〇	〇
一七	三〇〇	〇	一七	三〇〇	〇
一八	二〇〇	〇	一八	二〇〇	〇
一九	一〇〇	〇	一九	一〇〇	〇
二〇	〇	〇	二〇	〇	〇

種別	山林部	種別	市部	種別	市部
二	二〇、五〇〇	二	一、八〇〇	二	一、八〇〇
三	二〇、〇〇〇	三	一、七〇〇	三	一、七〇〇
四	一九、五〇〇	四	一、六〇〇	四	一、六〇〇
五	一九、〇〇〇	五	一、五〇〇	五	一、五〇〇
六	一八、五〇〇	六	一、四〇〇	六	一、四〇〇
七	一八、〇〇〇	七	一、三〇〇	七	一、三〇〇
八	一七、五〇〇	八	一、二〇〇	八	一、二〇〇
九	一七、〇〇〇	九	一、一〇〇	九	一、一〇〇
一〇	一六、五〇〇	一〇	一、〇〇〇	一〇	一、〇〇〇
一一	一六、〇〇〇	一一	九〇〇	一一	九〇〇
一二	一五、五〇〇	一二	八〇〇	一二	八〇〇
一三	一五、〇〇〇	一三	七〇〇	一三	七〇〇
一四	一四、五〇〇	一四	六〇〇	一四	六〇〇
一五	一四、〇〇〇	一五	五〇〇	一五	五〇〇
一六	一三、五〇〇	一六	四〇〇	一六	四〇〇
一七	一三、〇〇〇	一七	三〇〇	一七	三〇〇
一八	一二、五〇〇	一八	二〇〇	一八	二〇〇
一九	一二、〇〇〇	一九	一〇〇	一九	一〇〇
二〇	一一、五〇〇	二〇	〇	二〇	〇

種別	五千人以下ノ町ノ部	村落ノ部
二	一、三三〇	九、八〇〇
三	一、二八〇	九、六〇〇
四	一、二四〇	九、二〇〇
五	一、二〇〇	八、八〇〇
六	一、一六〇	八、四〇〇
七	一、一二〇	八、〇〇〇
八	一、〇八〇	七、六〇〇
九	一、〇四〇	七、二〇〇
一〇	一、〇〇〇	六、八〇〇
一一	九、六〇〇	六、四〇〇
一二	九、二〇〇	六、〇〇〇
一三	八、八〇〇	五、六〇〇
一四	八、四〇〇	五、二〇〇
一五	八、〇〇〇	四、八〇〇
一六	七、六〇〇	四、四〇〇
一七	七、二〇〇	四、〇〇〇
一八	六、八〇〇	三、六〇〇
一九	六、四〇〇	三、二〇〇
二〇	六、〇〇〇	二、八〇〇
二一	五、六〇〇	二、四〇〇
二二	五、二〇〇	二、〇〇〇
二三	四、八〇〇	一、六〇〇
二四	四、四〇〇	一、二〇〇
二五	四、〇〇〇	八〇〇
二六	三、六〇〇	四〇〇
二七	三、二〇〇	〇
二八	二、八〇〇	
二九	二、四〇〇	
三〇	二、〇〇〇	

種別	五千人以上ノ町ノ部	五千人以下ノ町ノ部
二	一、五〇〇	一、〇〇〇
三	一、五二〇	一、〇二〇
四	一、五四〇	一、〇四〇
五	一、五六〇	一、〇六〇
六	一、五八〇	一、〇八〇
七	一、六〇〇	一、一〇〇
八	一、六二〇	一、一二〇
九	一、六四〇	一、一四〇
一〇	一、六六〇	一、一六〇
一一	一、六八〇	一、一八〇
一二	一、七〇〇	一、二〇〇
一三	一、七二〇	一、二二〇
一四	一、七四〇	一、二四〇
一五	一、七六〇	一、二六〇
一六	一、七八〇	一、二八〇
一七	一、八〇〇	一、三〇〇
一八	一、八二〇	一、三二〇
一九	一、八四〇	一、三四〇
二〇	一、八六〇	一、三六〇
二一	一、八八〇	一、三八〇
二二	一、九〇〇	一、四〇〇
二三	一、九二〇	一、四二〇
二四	一、九四〇	一、四四〇
二五	一、九六〇	一、四六〇
二六	一、九八〇	一、四八〇
二七	二、〇〇〇	一、五〇〇
二八	二、〇二〇	一、五二〇
二九	二、〇四〇	一、五四〇
三〇	二、〇六〇	一、五六〇

種別	村落ノ部		以上
	檀徒 一月實收入	半檀 一月實收入	
二	一、一六〇	五八〇	
三	一、二二〇	五八〇	
四	一、〇八〇	五四〇	
五	一、〇四〇	五〇〇	
六	九六〇	四八〇	
七	九二〇	四六〇	
八	八八〇	四四〇	
九	八四〇	四二〇	
一〇	八〇〇	四〇〇	
一一	七六〇	三八〇	
一二	七二〇	三六〇	
一三	六八〇	三四〇	
一四	六四〇	三二〇	
一五	六〇〇	三〇〇	
一六	五六〇	二八〇	
一七	五二〇	二六〇	
一八	四八〇	二四〇	
一九	四四〇	二二〇	
二〇	四〇〇	二〇〇	

宗規寺院關係人規則

昭和四年一月三十一日教令第四十一號改正

第一條 本則ハ宗憲第七章第五十六條ニヨリ之ヲ定ム

第二條 寺院ノ關係人ハ左ノ四種トス

- 末寺總代
- 法類總代
- 檀徒總代
- 信徒總代

第三條 寺院ノ關係人ハ住職任免及寺有財産ノ異動其他特ニ規定シアル事項ニ對シ當該

寺院ノ關係人トス

第四條 末寺アル寺院ニアリテハ末寺總代ヲ選定スヘキモノトス

寺院關係人規則

第五條 末寺總代ハ二名以上トシ其末寺正住職ノ互選ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

但末寺ノ少數其他必要ノトキハ法類寺ヲ定メ法類總代ヲ加フルコトヲ得

第六條 末寺ナキ寺院ニアリテハ法類總代ヲ選定スヘキモノトス

第七條 寺院ノ法類ハ左ノ各項ニ依ル

- 一、同一本寺ヲ有スル寺院住職
- 一、法流ヲ同シクスル寺院住職
- 一、結衆又ハ組寺若クハ隣寺ノ寺院住職
- 一、先代住職ノ縁故アル寺院住職
- 一、現住職ノ法縁ニシテ寺院住職タル者
- 一、其他深厚ナル關係アル者

第八條 前各項ノ内三名以上十名以内ノ法類ヲ定メテ宗務本支所ヘ届出ツヘシ

第九條 法類ノ選定順序ハ第七條中ノ項目ヲ多ク具備スルモノヨリ之ヲ取り相同シキモ

ノハ關係深厚ト認ムルモノヨリトル

第十條 法類ヲ加除セントスルトキハ法類多數ノ賛同ヲ經ヘキモノトス

第十一條 法類ハ正住職者ニ限ル

但法類寺以外ヨリ兼務セル者ハ此限りニアラス

第十二條 法類ハ凡テ住職寺ヲ移轉シタルトキ其ノ資格ヲ失フモノトス

前任職人體關係ノ法類ハ後任住職ノ就任ト同時ニ其資格消滅スルモノトス

第十三條 法類總代ハ二名以上トシ法類住職ノ互選ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

正住兼務ニ拘ラス同一人體ヲ以テ當該寺院ノ法類總代トナスコトヲ得ス

法類總代缺員ノトキハ直チニ補缺選定ノ上届出ツヘシ

第十四條 末寺總代法類總代選定ノ場合其關係寺院以外ヨリ兼務セルモノニ限り選被選人

タルコトヲ得

第十五條 末寺總代及法類總代ハ滿三ケ年毎ニ改選スヘシ

但改選ノ際再選スルモ妨ナシ

第十六條 末寺總代又ハ法類總代ノ選定ハ當該寺院住職ニ於テ管理ス

第十七條 末寺總代法類總代ヲ選定シタルトキハ住職並當選者及立會人代表者一名連署ノ

上届出ツヘシ

第十八條 法類並ニ法類總代及末寺總代ノ資格ハ宗務所ニ届書ヲ受理シタル日ヨリ發生ス

第十九條 總大本山並ニ高野山内寺院ニアリテハ特ニ古來ノ慣例ニ依ルコトヲ得

開教地ノ寺院ニ於テ規定ノ法類ヲ撰定シ難キ事情アル場合ハ特別ノ取扱ヲナスコトヲ得

第二十條 眞言宗各派中ノ寺院ニシテ本宗寺院ニ縁故關係ヲ有スル者ハ法類タルコトヲ得

ルモノトス

第二十一條 檀徒總代信徒總代ハ法令ノ定ムル所ニヨリ選定ス

第二十二條 檀徒少數ノ寺院ニアリテハ信徒總代ヲ並ヘ置クコトヲ得

第二十三條 本則施行ニ關シ必要ノ細則ハ教令ヲ以テ之ヲ定ム

住職

宗規住職任免規則

宗規住職任免規則

大正十五年十二月六日教令第二十二號、昭和四年十月三十一日教令第四十一號、昭和四年十一月二十日教令第四十八號、昭和六年三月二十日教令第六十一號修正

第一條 本則ハ宗憲第八章第六十二條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 寺院ニハ専務ノ住職ヲ置クヘキモノトス

但十三等以下ノ寺院ニシテ専務住職ヲ置キ難キ事故アルトキハ兼務住職ヲ置クコトヲ得兼務ハ十三等ヨリ二十等マテハ一ヶ寺二十一等ヨリ二十四等マテハ二ヶ寺以内ニ限ル

第三條 十三等以下二十等マテノ寺院ハ滿三ヶ年以内兼務住職ヲ置クコトヲ得但五ヶ年以上正住職ヲ置キタル寺院ニアラサレハ兼務ヲ置クコトヲ得ス

第四條 總大本山並ニ準大本山住職ハ第二條第三條ニ拘ハラス一ヶ寺ヲ限り兼務スルコトヲ得

第五條 總大本山別院ハ第二條第三條第四條ノ規定ニ拘ハラス總大本山住職之ヲ兼務ス

住職任免規則

ルモノトス但當該別院法中別段ノ規定ニ依リ總大本山住職以外ニ於テ兼務住職ヲ置クコトヲ得ル場合亦同シ

第六條 一山地本坊及塔頭寺院又ハ創立移轉ノ寺院ニシテ特別ノ事情アルモノニ限リ第二條第三條ノ規定ニ拘ラス一ヶ寺ニ限リ兼務住職ヲ置クコトヲ得

第七條 兼務住職ハ其正住職寺ヲ異動シタルトキ繼續兼務ノ手續ヲ爲ササレハ其資格消滅スルモノトス

但繼續兼務ハ其殘任期ニ依ル

第八條 兼務住職ニシテ當該寺院ノ正住職トナリタルトキハ前正住職寺ヲ兼務スルコトヲ得ス

第九條 住職缺員ノ際寺院整理上必要ト認メタルトキハ第二條第三條ニ拘ハラス一ヶ年以内ノ期限ヲ定メ臨時兼務住職ヲ特任スルコトヲ得

寺院住職ニシテ停權ニ處セラレタル場合ハ法務ヲ代行セシムル爲臨時事務取扱者ヲ任命スルコトヲ得

第十條 事務多端ノ寺院ニハ副住職ヲ置クコトヲ得

但副住職ハ任命當時ノ住職在任中ニ限ル者トシ法要勤務ノ外住職ノ職務ヲ執行スルコトヲ得ス

第十一條 寺院住職ニ任スヘキ者ハ左ノ標準ニ隨ヒ寺院等級ニ相當スル教師ニ限ル副住職ハ相當教師ヨリ一級乃至三級下級ノ教師ヲ以テ之ニ任スルコトヲ得

寺院等級	特等 一、二、三等	同地 四、五、等	等地一等 五等マテ	同六等 十等マテ	同十一等 十五等マテ	同十六等 廿五等マテ
教師等級	權少僧正 以上	權大僧都 以上	權中僧都 以上	權少僧都 以上	權律師 以上	試補 以上

寺院等級ノ昇級若ハ降級處分ノ結果應當資格ニ影響アルモ之カ爲ニ住職ハ失職セシメサルモノトス

第十二條 住職ヲ定ムルハ總テ當該寺院住職關係人ノ推舉又ハ管長ノ特任ニ依ルモノトス

住職任免規則

第十三條 寺院住職及副住職ノ任命ハ現住職ニ於テ相當資格アル候補者ヲ選ヒ關係人連署ヲ以テ其任命ヲ申請スヘキモノトス

但住職缺員ノ場合ニアリテハ其缺員ノ日ヨリ三ヶ月以内ニ關係人連署ヲ以テ申請ヲ爲スヘシ其期間内ニ申請ヲ爲シ能ハサル事情アルトキハ延期ヲ申請シ管長ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條 總大本山々内寺院若ハ塔頭寺院住職及副住職ノ任命ハ其選定ニツキ特殊ノ慣例アルモノハ相當資格アル教師中ニ就キ其慣例依リ後任者ヲ定メ任命ヲ申請スヘキモノトス

第十五條 寺院ニ於テ豫メ後任住職候補者ヲ定メ置ク必要アルモノハ當該寺院住職及關係人連署ノ上登録ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ候補者ハ第十一條ノ標準資格ニヨリ三級下級ノ教師以上タルヲ要ス住職ニ申請ノ場合ハ第十一條ノ標準資格ヨリ一級下級ノ者ニ限リ之ヲ任命スルコトヲ得

第十六條 登録候補者ノ住職任命申請ハ本寺及關係人ノ連署ヲ要セス住職アルトキハ其住

職住職ナキトキハ本八ヨリ申請スルモノトス

第十七條 登録候補者ノ登録取消ノ必要アルトキハ本人並ニ當該寺院住職及關係人連署ノ上申請スルコトヲ得

第十八條 前各條ノ申請ハ總大本山以下ノ末寺ニ係ルモノハ其本寺住職ノ連署又ハ副申ヲ得ヘキモノトス

本寺住職ニ於テ關係人選定ノ候補者ニ對シ不適任ト認メタルトキハ其事由ヲ記シ其請求ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ關係人ニ返附ス可シ

此場合ニ於テ本寺住職ノ事由書ヲ添ヘ住職任命申請書ヲ提出スルコトヲ得

第十九條 住職選定ニ際シ關係人ノ協議調ハサルトキハ第十三條ニ規定セル期間内ニ關係人双方又ハ一方ヨリ其事由ヲ具シ所屬宗務支所又ハ總大本山寺務所ヲ經由シ管長ノ裁定ヲ請フヘキモノトス

第二十條 第十八條第二項ノ住職任命申請書及第十九條ノ裁定申請書ニ對シテハ所屬宗務

支所長若ハ其所屬本山住職ハ事實ヲ審査シ意見ヲ附シ管長ニ開申スヘシ

第二十一條 左項ノ一ニ該當スルモノハ第十三條第十八條ノ規定ニ拘ハラヌ管長ハ住職ヲ

特任スルコトヲ得

一、第十三條ニ規定セル期間内又ハ同條ニ依リ許可セラレタル期間内ニ住職ノ候補者ヲ選定シ任命ヲ請ハサルトキ

一、管長ノ裁定ヲ受ケタル日ヨリ一ヶ月以内ニ其裁定ニ隨ヒ任命ヲ請ハサルトキ

一、關係人不備等ノ事故ニヨリ成規ノ手續ヲ運ヒ難キトキ

一、其他臨機ノ處置ヲ執ル必要アルトキ

第二十二條 管長特任ノ住職ハ其寺院ノ關係人ニ於テ之ヲ拒否スルコトヲ得ス

補 則

第二十三條 眞言宗各派ノ一ニ屬スル教師ハ本宗規ニ依リ本宗寺院ニ住職副住職又ハ兼務

住職タルコトヲ得ルモノトス

但二派以上ニ亘リ十七等以上ノ寺院ヲ兼務スルコトヲ得ス

僧侶及教師

宗規僧侶分限規則

宗規僧籍規則

宗規教師補任規則

教師檢定試驗規程

宗規僧侶席次規則

宗規托鉢規則

生命保險加入獎勵規程

宗規僧侶分限規則

大正十五年五月十五日告示第九號、昭和四年一月三十一日教令第四十
昭和六年三月二十日教令第六十一號修正

第一條 本則ハ宗憲第九章第六十八條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 本宗僧侶ノ分限ヲ度牒授與以上トシ之ヲ分ツテ教師及未教師ノ二トス

第三條 左項ノ一ニ該當スル者ハ得度スルコトヲ得ス

一、學齡ニ達セサル者

一、戶籍不明ノ者

一、低能又ハ不具者

第四條 教師トハ試補以上ニ補任セラレタル者ヲ云ヒ未教師トハ未タ教師ノ資格ヲ得ザル者ヲ云フ

第五條 度牒ハ通常法式ニ用ヒル經典ヲ學得シタル者ニ之ヲ授與ス

第六條 教師ハ四度加行成滿受戒傳法灌頂受了又ハ別行修行成滿ノ者ニ對シ別ニ定ムル宗規ニ依リ之ヲ補任ス

第七條 僧侶ハ本宗ノ法脈ヲ傳承シ其分限ニ應シ教義ヲ宣布シ法儀ヲ執行スルヲ任トス

第八條 僧侶ハ宗憲宗規及教令訓示ヲ遵守スヘキモノトス

補 則

第九條 眞言宗各派ノ一ニ於テ度牒授與ヲ得テ僧侶分限ヲ取得シタル者ハ本宗ニ於テモ之ヲ認メ左項ノ場合ニ於テ本宗僧籍簿ニ登錄スルモノトス

一、眞言宗各派ノ一ニ屬スル僧侶ニシテ本宗所屬寺院ニ住職シタルトキ

一、眞言宗各派ノ一ニ屬スル僧侶ニシテ本宗所屬ニ其師僧替ヲナシタルトキ

第十條 眞言宗各派ノ一ニ於テ補任セラレタル教師ハ本宗ニ於テモ其資格ヲ認ムルモノトス

第十一條 眞言宗各派ノ一ニ屬スル教師ハ本宗ノ教育布教宗務其他ノ事業ニ從事シ又ハ本宗ニ屬スル教會講社ヲ設立スルコトヲ得

宗規僧籍規則

昭和六年三月二十日教令第六十一號制定

第一條 本則ハ宗憲第九章第六十八條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 本宗僧侶ノ僧籍ヲ左ノ三種トス

一、住 職 現ニ寺院住職タル者

一、前住職 住職タリシ者

一、徒 弟 度牒ヲ受ケタル者

第三條 僧籍ハ一寺院ニ定屬スヘキモノトス但獨立ノ教會所ハ寺院ニ準シ其ノ主任ハ住職ト見做ス

第四條 宗務所ニ支所別ニ依ル僧籍簿ト除籍簿トヲ備ヘ置クモノトス

第五條 僧籍ノ設定ハ左ノ例ニ依ルヘキモノトス

- 一、正住職ノ僧籍ハ當該寺院ニ置ク
- 二、兼務住職並ニ寺院住職ニシテ教會所主任タル者ハ兼務ト見做シ僧籍ハ俱ニ本住寺ニ置ク

- 三、前住職ノ僧籍ハ最後ノ住職寺ニ置ク

- 四、副住職ノ僧籍ハ本住職寺ニアル者ハ其寺ニ置キ本住職寺ナキ者ハ副住職寺ニ置ク

- 五、徒弟ノ僧籍ハ師僧ノ屬スル寺ニ置ク

第六條 僧籍簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一、所屬寺院ノ府縣、市郡、町村、字、寺院名
- 二、本籍ノ府縣、市郡、町村、字、番地並ニ戶主ノ氏名及戶主トノ續柄
- 三、族稱及俗名僧名
- 四、出生年月日及ヒ父ノ氏名

- 五、師僧ノ所屬寺院及氏名

- 六、得度ノ年月日並ニ道場及戒師氏名

- 七、度牒ノ年月日並ニ改名ノ年月日

- 八、加行ノ開白結願年月日並ニ道場及阿闍梨ノ氏名

- 九、灌頂ノ年月日並ニ道場及阿闍梨ノ氏名

- 十、開壇ノ年月日並ニ道場及證明師

- 十一、受戒ノ年月日並ニ道場及阿闍梨ノ氏名

- 十二、學歷學校名及卒業ノ年月日又ハ講習所名及年月日其他檢定合格ノ年月日

- 十三、傳授ノ年月日流派名並ニ道場及阿闍梨ノ氏名其他法流稟承ノ道場年月日阿闍梨ノ氏名

- 十四、僧階ノ已往及現在ノ任命年月日

- 十五、學階教階並ニ學位ノ已往及現在ノ任命ノ年月日

十六、色衣及托鉢許可年月日

十七、交衆及參籠並ニ高野山學道ノ經歷年月日

十八、住職ノ已往及現在ノ任命年月日(兼務副住共)

十九、宗派及官公ヨリノ賞罰ノ理由及年月日

二十、兵役關係

第七條 除籍簿ニハ除籍ノ理由及年月日ヲ記載シ別ニ編綴ノ上二十年間之ヲ保存スヘキモノトス

第八條 徒弟ノ僧籍編入ハ師僧ニ於テ其ノ手續ヲ爲スモノトス

第九條 前住職並ニ未住職教師ノ徒弟ナルモノハ其僧籍ノ設定ニ際シ當該寺住職ノ同意ヲ得サル場合ハ別ニ法類寺又ハ其他ノ寺院ニ僧籍ヲ置クコトヲ得

第十條 僧籍削除ハ懲誡ニ依ルノ外左記ノ事由ニ基キ關係人ノ届出又ハ當局ノ認定ニ依ルモノトス

一、死亡者

一、五ヶ年以上所在不明ノ者

一、離弟ノ認可ヲ得タル者

一、他派ニ轉籍シタル者

一、本人ヨリ離脱ヲ申請スル者

第十一條 師弟ノ關係ヲ離斷セントスル者ハ關係者ノ連署ヲ得テ事情ヲ具シ管長ノ認可ヲ得ルモノトス關係者ニ於テ連署ヲ拒ム者アルトキハ其事由ヲ記シ管長ノ裁定ヲ經ルモノトス

第十二條 僧籍削除ノ後復得セントスル場合ハ僧籍設定寺住職ノ連署ヲ以テ事情ヲ具シ届ケ出ツヘキモノトス

第十三條 僧籍簿記入事項ノ異動ハ其都度届出ツヘキモノトス

第十四條 本宗僧侶ハ直接ニ僧籍簿ヲ閲覽シ謄本又ハ身分ノ證明ヲ請求スルコトヲ得

第十五條 僧籍ノ異動ノ記入ハ其都度取扱者ノ檢印ヲ爲スモノトス
第十六條 本則施行ニ關シ必要ナル規程ハ別ニ教令ヲ以テ之ヲ定ム

宗規教師補任規則

大正十五年十二月六日教令第二十二號、昭和四年一月三十一日教令第四十一號修正

第一條 本則ハ宗憲第九章第六十八條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 管長及門跡ハ當然大僧正トス

第三條 教師ノ補任ハ認定及檢定ノ二種トス

第四條 認定ニ依ル補任ハ左ノ如シ

第一項 高野山大學卒業若ハ學修中ノ者並ニ高野山中學卒業若ハ學年修了者ハ左ノ區
分ニ從ヒ補任スルモノトス

僧 階 區 分

權大僧都 高野山大學本科卒業者

中僧都 大學本科各專攻學科單位總數三分ノ二以上修了者並元眞言宗高野山大
學卒業者

教師補任規則

權中僧都

大學本科各專攻學科單位總數三分ノ一以上修了者又大學選科所定學科目全部修了者並元眞言宗高野山大學第三學年修了者

少僧都

大學豫科第二學年修了者又大學選科所定學科單位總數三分ノ二以上修了者並元眞言宗高野山大學第三學年修了者

權少僧都

大學豫科第一學年修了者又大學選科所定學科單位總數三分ノ一以上修了者並元眞言宗高野山大學第一學年修了者

律師

高野山中學卒業者

權律師

高野山中學第四學年修了者

試補

高野山中學第三學年修了者

第二項 本宗認定補助教育學校ヲ卒業シ年齡滿二十二歲以上度牒授與後滿二ヶ年以上ノ者ハ試補ニ補任スルモノトス

第五條 檢定ニ依ル補任ハ左ノ如シ

第一項 宗立以外ノ大學令ニ依ル大學卒業者ニシテ別ニ定ムル教師補任試驗ニ合格シタル者ハ中僧都ニ補任スルモノトス

第二項 宗立以外ノ專門學校令ニ依ル學校卒業者ニシテ別ニ定ムル教師補任試驗ニ合格シタル者ハ第四條規定ニ準據シ相當ノ僧階ニ補任スルモノトス

第三項 前二項以外ノ者ニシテ高野山大學豫科及中學相當ノ學科目ニ依ル教師補任試驗ニ合格シタル者ハ前條ノ區分ニ從ヒ補任スルモノトス

第四項 本宗中學第三學年程度ノ學科目ニ依ル特別檢定試驗ニ合格シ年齡滿二十二歲以上度牒授與後滿三ヶ年以上ノ者ハ試補ニ補任スルモノトス

第六條 第四條ノ第二項第五條ノ第四項ニ依ル教師ハ少僧都以上ニ昇補スルコトヲ得ス但特遇褒賞ニ依ル者ハ此限ニアラス

第七條 教師ノ昇補ハ第四條第五條及特遇褒賞ニ依ルノ外原級ニ於テ左記年限ヲ經過スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

- 一、中僧都以下ニ補スルハ滿三ヶ年以上
- 一、權大僧都大僧都ニ補スルハ滿五ヶ年以上

一、權少僧正以上ニ補スルニハ滿七ケ年以上

第八條 第四條第一項ニ依ル補任ハ其學校ノ學長ニ於テ具狀シ其他ノ教師ノ昇補ハ支所長之ヲ具狀シ支所所屬以外ノ教師昇補ハ當該本山任職之ヲ具狀ス

第九條 左項ノ一ニ該當スル者ハ教師ニ補任スルコトヲ得ス

一、白痴瘋癲及教師ノ職ニ堪エサル癡疾不具ノ者

一、本宗ニ於テ懲誡處分ヲ受ケ其期間中ニアル者及降級以上ノ處分ヲ受ケ其特免ヲ得サル者

三、刑事ノ被告トナリ未決中ノ者及禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

四、破産ノ宣告ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第十條 金剛峯寺座主ノ與ヘタル宗祖廟前參籠證ヲ有スル者ニ非サレハ中僧都以上ノ教師ニ補スルコトヲ得ス

第十一條 本則施行ニ關シ必要ナル細則ハ教令ヲ以テ之ヲ定ム

補 則

第十二條 京都大學卒業業者及學年修了者並ニ京都中學卒業業者及學年修了者ニ對シテハ高野山大學卒業業者及學年修了者高野山中學卒業業者及學年修了者ニ準シ取扱フモノトス

教師檢定試驗規程

三三〇

昭和五年十一月四日敕令第五十四號制定、昭和六年十一月二日敕令第六十四號改正

第一條 本規程ハ宗規教師補任規則第五條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 本檢定試驗ハ宗立大中學以外ノ大中學、專門學校等ノ修了又ハ卒業又ハ之ト同等ノ學歷アル本宗僧侶ニシテ教師資格ヲ得ントスル者ニ對シ之ヲ行フ

第三條 檢定試驗ヲ受ケントスル者ハ規定ノ書式ニ依リ毎年五月末日迄ニ修學證明書並ニ受験料等ヲ添ヘ宗務支所經由ノ上本所へ出願スヘシ 但第四種受験出願者ハ修學證明書添付ノ要ナシ

第四條 試験ハ毎年六月宗務所ニ於テ之ヲ行ヒ時日決定ノ上ハ出願者ニ對シ出頭ヲ命ス

第五條 宗規布教規則第五條第一項ニ依ル試験ヲ第一種、同第二項ニ依ル試験ヲ第二種、同第三項ニ依ル試験ヲ第三種、同第四項ニ依ル試験ヲ第四種試験トシ受験資格ヲ左ノ通リトス

但加行、灌頂、授戒ノ修了者ニ限ル

第一種 宗立以外ノ大學令ニ依ル大學卒業者

第二種 宗立以外ノ專門學校令ニ依ル學校卒業者

第三種

(イ) 公私立中學並ニ甲種實業學校三年修了者、乙種實業學校卒業者、本宗認定補助教育學校卒業者、第四種特別檢定試験合格者及之ト同等ノ學歷アル者

(ロ) 公私立中學並ニ甲種實業學校四年修了者及之ト同等ノ學歷アル者

(ハ) 公私立中學、甲種實業學校卒業者、高等學校高等科一年修了者、大學令ニ依ル大學豫科(三年制)一年修了者及之ト同等ノ學歷アル者

(ニ) 高等學校高等科二年修了者、大學令ニ依ル大學豫科(二年制)一年修了者、全(三年制)二年修了者及專門學校令ニ依ル學校(三年制)一年修了者及之ト同等ノ學歷アル者

教師檢定試驗規程

三三一

(ホ) 高等學校高等科卒業者、大學令ニ依ル大學一、二年修了者、全豫科修了者、
 專門學校令ニ依ル學校(三年制)二年修了者及同等以上ノ學歷ヲ有スル者
 第四種 一定ノ學歷ナク滿十八歲以上ノ者

第六條 試驗科目並ニ教師資格左ノ通リトス

第一種	中僧部	第二種	權中僧部
1 眞言宗 教理概論	2 佛教概論 3 佛教史 <small>支那 日本 印度</small>	1 眞言宗 教理概論	2 佛教概論 3 佛教史 <small>支那 日本 印度</small>
4 俱舍論	5 眞言宗史 6 寶 鑰	4 俱舍論	5 菩提心論 6 寶 鑰
7 菩提心論	8 即身義 9 聲字義	7 即身義	8 聲字義 9 二教論
10 二教論	11 吽字義 12 理趣經	10 吽字義	11 理趣經 12 曼荼羅
13 曼荼羅	14 大日經疏 15 梵習字	13 梵習字	
16 聲明 (魚山叢芥集)		14 聲明 (第一種ニ同シ)	
17 事作法 (理趣經土砂加持法則及次第引導作法)		15 事作法 (第一種ニ同シ)	

第一種	中僧部	第二種	權中僧部
(イ) 教師試補	(ロ) 權律師	(ハ) 律師	(ニ) 權少僧部
(ホ) 少僧部			
1 自宗部教科書 卷一、二、三	1 自宗部教科書 卷一、二、三、四	(ロ)ノ科目全	1 眞言宗 教理概論
2 十卷章素讀	2 十卷章素讀	9 秘 鍵	2 秘 鍵
3 常用經典素讀	3 常用經典素讀	10 菩提心論	3 菩提心論
4 三教指歸	4 三教指歸	11 唯識綱要	4 寶 鑰
5 梵 習 字	5 梵 習 字		5 八宗綱要
6 聲明 <small>前後讀散華 對揚唱誦</small>	6 八宗綱要	7 6 佛敎史(日本) 即身義	6 佛敎史(日本) 即身義
7 事作法 <small>理趣法 引導作法</small>	7 明聲イニ同シ	8 梵 習 字	7 梵 習 字
8 事作法 <small>(イ)ニ同シ</small>		9 8 聲 明 梵 習 字	8 聲 明 梵 習 字
		10 11 事作法 <small>(イ)ト同シ</small>	9 10 聲 明 梵 習 字
			11 事作法 <small>(イ)ト同シ</small>
			12 佛敎概論
			13 二 教 論
			14 聲 明 <small>(イ)ニ</small>
			15 事作法 <small>(イ)ニ</small>

中學三年程度ノ國語、漢文、地理、歴史等ニ付問題ヲ課シ本人受領後一週間以内ニ文書ヲ以テ其答案ヲ提出セシメ之ヲ審査シ更ニ口答試験ニ於テ試問考査ス
作文ハ本所ニ於テ作製セシム

口答試験科目

- 1 安心章ノ朗讀及説明解釋
- 2 三和讃ノ譜誦及説明解釋
- 3 秘鍵菩提心論ノ素讀
- 4 聲明(前後讃、散華、對揚、唱禮)
- 5 事作法(引導作法)

第七條 受験科目中ニ付他ノ學校ニ於テ學修シ實力アリト認メタル者ニ對シテハ其科目ノ試験ヲ省略スルコトヲ得

第八條 指定ノ種目試験ノ不合格ニシテ再度同種目又ハ其以下ノ試験ヲ受ケントスル場

合先キノ六十點以上ノ得點シタル科目ノ試験ハ省略スルコトヲ得

第九條 第一種、第二種、第三種、(ロ) (ハ) (ニ)ノ受験資格ヲ有スル者ト雖モ其以下ノ種目ノ試験ヲ受クルコトヲ得

但受験料ハ其受験セントスル種目相當ノ金額ヲ納付スルモノトス

第十條 檢定試験受験料ヲ左記ノ通りトシ試験不合格者ト雖モ受験料ハ返付セス

- 第一種 金七拾圓
- 第二種 金六拾圓
- 第三種 金五拾圓
- 第四種 金拾圓

第十一條 宗務所總務ハ檢定試験ノ都度試験委員長並ニ試験委員及庶務員ヲ囑託シ嚴重ニ試験セシム

第十二條 試験方法ハ素讀、聲明、事作法ハ口答試験トシ其他ハ筆答試験トス

但第四種試験ハ別トス

第十三條 檢定試験採点ハ各科目ニ付キ百点ヲ以テ満点トナシ各科目五十点以上平均六十
点以上ヲ合格者トス

但平均六十点以上ニシテ二科目以内五十点未滿四十点以上ノ者アルトキハ試験委員協議
ノ上合格不合格ヲ決定ス

第十四條 指定ノ種目試験ニ不合格ト雖モ第三種（イ）及第四種ヲ除ク外試験委員協議ノ
上其以下ノ種目ニ相當スル實力アリト認メタルトキハ其相當種目ノ合格者ト認ムルコト
アルヘシ

第十五條 宗務所ハ總務ノ名ニ依リ試験合格者ヘハ合格證ヲ交付ス

第十六條 試験合格者ハ出願ニ依リ相當ノ教師ニ補任セララル、モノトス

但第四種ニ依ル合格者ハ度牒年滿三ヶ年以上ヲ經過シ年齢二十二才以上ニ達シタル者ニ
限ル

第十七條 教師補任出願ノ場合ハ同時ニ色衣免許ヲ出願スルモノトシ第一種、第二種、第
三種試験ニ合格シタル者ハ手数料金壹圓、第四種試験ニ合格シタル者ハ補任禮録男僧ハ
參拾五圓、尼僧ハ拾圓、色衣禮録ハ男尼僧共金五圓ヲ附シ出願スヘシ

宗規僧侶席次規則

昭和六年三月二十日教令第六十一號全改

第一條 本則ハ宗憲第九章第六十八條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 本宗僧侶ノ席次ハ教師等級ヲ基礎トシ學階教階ヲ加ヘ左ノ標準ノ階位ニ依リ次
第スルモノトス

教階	學階	種目	階位	
			一階	二階
主 教 弘 教 示 教 輔 教	碩 學	大僧正 僧權 正大 中僧正 僧權	一階	二階
			三階	四階
			五階	六階
	學 匠	中僧正 僧權 正少 僧正	七階	八階
			九階	十階
			十一階	十二階
	都 講	少僧正 僧權 大僧部 僧權	十三階	十四階
			十五階	十六階
			十七階	十八階
	司 講	中僧部 僧權 少僧部 僧權	十九階	二十階
			二十一階	二十二階
			二十三階	二十四階
	講	少僧部 僧權 僧部 僧權	二十五階	二十六階
			二十七階	二十八階
			二十九階	三十階

第三條 教師等級同シキモノハ其標準階位ノ學階又ハ教階ヲ有スルモノヲ上席トシ學階

教階ヲ併セ有スルモノハ其一ヲ有スルモノノ上席トス

第四條 教師等級ニ於テ下位ナルモ上位ノ學階又ハ教階ヲ有スルモノハ其標準相當ノ階位ノ席ニ就クコトヲ得

第五條 前各條ニ依ル階位及其他ノ資格ノ同シキモノハ年齡順ニ從フモノトス

第六條 前住職並ニ末住職教師ハ相當階位ノ次席トシ前住職ハ未住職ノ上席トシ未教師ハ凡テ教師ノ次席トシ其間ニ於テハ度牒拜命ノ前後ニ依リ拜命ノ年月日同シキ者ハ年齡順トス

第七條 宗内ノ公職ニ在ル者ハ前各條ノ規定ニ依ルノ外職員分限等級ニ應シ左ノ標準相當ノ席次ヲ得ルモノトス

特旨ニヨリ前職ノ待遇ヲ與ヘラレタル者亦同シ

前二項ニ依ル席次ハ他ノ資格ニ基ク同階位ノモノ、上席トス

職員	階位	一級	二級	三級	一級	二級	三級	一級	二級	三級	一級	二級				
親	命	特	命	直	命	所	命									
席次	階位	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五

第八條 總大本山内ニ限り席次上ニ付古來ノ慣例アルモノハ其慣例ニ從フコトヲ得
 第九條 本則施行ニ關スル必要ナル規程ハ教令ヲ以テ之ヲ定ム

宗規托鉢規則

- 第一條 本則ハ宗憲第九章第六十八條ニ依リ之ヲ定ム
- 第二條 托鉢免許ノ下附ヲ出願セントスル者ハ明治十四年八月十五日内務省戌第二號達ヲ遵守シ所定ノ書式ニ依リ禮録金ヲ添ヘ差出スヘシ
- 第三條 免許證ノ下附ハ教師ニシテ求寂戒又ハ具足戒ヲ受ケタルモノニ非サレハ出願スルコトヲ得ス
- 第四條 免許證ヲ下附セラレタル時ハ本人ヨリ各自所在ノ地方廳(東京ハ府廳警視廳)ヘ届出ツヘシ
- 第五條 免許證ハ常ニ護持シ貸與スヘカラス
- 第六條 免許證ヲ遺失セシトキハ速ニ其旨届出テ再下附ヲ請フヘシ
- 第七條 本規則並ニ内務省達ニ違背セル行爲アリト認ムルトキハ直チニ免許證ヲ返上セ

シムルモノトス

(免許證雛形) 木製縦六寸 横二寸

三三三

表

○

管長印

第何號

托鉢免許之證

裏

○

何府何市何町何寺
何縣何郡何村何院 住職又ハ徒弟

職氏名

年月日

何年何月何日生

生命保險加入獎勵規程

大正十五年十二月六日教令第二十四號制定、昭和六年十一月二日教令第六十四號全改

第一條 本宗管長ハ寺族保護法ヲ制定シ其一事業トシテ確實ナル生命保險會社ト特約ヲ結ヒ寺族ヲシテ之レニ加入セシメ之レカ便 ヲ計ルモノトス

第二條 本宗管長ハ宗務所内ニ保險部ヲ設置シ寺族ハ勿論希望ニ依リテハ一般檀信徒ノ申請ニヨリ保險部ヲシテ其ノ總テノ事務ヲ取扱ハシムルモノトス

第三條 本宗管長ハ寺族中ノ保險加入者ニ對シテ其ノ拂込金ニ應シ當該會社ト特約比率ノ補助ノ特典ヲ認ムルモノトス
補助ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

學階及教階

宗規學階教階補任規則
學階詮衡會規程

宗規學階教階補任規則

大正十五年十二月六日教令第二十二號修正

第一條 本則ハ宗憲第十章第七十二條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 學階ハ左ノ標準ニ依リ大學長之ヲ推薦シ學階詮衡會ノ詮衡ヲ經テ補任ス

一、司講 高野山大學卒業中特ニ自他宗學ニ造詣アルモノ並ニ之ト同等ノ學力アリト認メタル者

一、都講 司講拜命後五ヶ年以上ヲ經過シ尙研究ヲ怠ラサルモノ

一、學匠 定員十五名トシ都講拜命後七箇年以上研究ヲ繼續シ自他宗學ノ造詣ニ於テ愈々進境ヲ認メタル者

一、碩學 定員五名トシ學匠拜命後十箇年以上經過シ教義ノ源底ヲ極メタル者

第三條 學階ハ前條ノ外論文提出ニ依リ之ヲ請求スルコトヲ得

學階教階補任規則

第四條 學階詮衡會ヲ置キ學階補任又ハ昇階ノ詮衡ヲ行フモノトス

第五條 學階詮衡會員ハ七名トシ左記各項ニヨリ管長之ヲ特任ス

一、宗務所教學部長

一名

一、大學々長

一名

一、大學教授中ヨリ

二名

一、學階ヲ有スル者又ハ本宗教師中ヨリ

三名

第六條 教階ハ左ノ標準ニ依リ大師教會本部長之ヲ推薦シ布教評議會ノ詮衡ヲ經テ補任ス

一、輔教 相等學力ヲ有シ且ツ布教ニ堪能ナル者

但高野山大學卒業中布教科ヲ修了シ大學長ノ具狀アル者布教講習會ヲ修了シ教會本部長ノ具狀アル者ハ布教評議會ノ詮衡ヲ經ルヲ要セス

一、示教 輔教拜命後滿五ヶ年以上布教ニ勉メ其成績優良ナル者

一、弘教 示教拜命後滿七ヶ年以上傳道ニ盡力シ其技能優秀ナル者

一、主教 弘教拜命後尙十ヶ年以上民衆化導ニ盡瘁シ其功績顯著ニシテ學德勝レタル者

第七條 學階詮衡委員布教評議委員ハ出席者二名ノ同意アルトキハ學階並ニ教階補任候補者ヲ推薦スルコトヲ得

第八條 總大本山住職及宗務支所長ハ第二條及第六條ノ資格アリト認ムル者ニ就キ學階教階ノ補任又ハ昇階候補者ヲ推薦スルコトヲ得

第九條 學階及教階補任ニ關シ必要ナル細則ハ教令ヲ以テ之ヲ定ム
補 則

第十條 舊規ニ依リ布教師ニ補任セラレタル者ハ昇補ノトキ其年限ヲ加算スルコトヲ得

學階詮衡會規程

三三八

大正十五年六月二十五日教令第十四號制定、昭和二年十二月九日教令第三十三號、昭和五年十一月四日教令第五十五號、昭和六年十一月二日教令第六十四號改正

第一條 本規程ハ宗規學階教階補任規則第九條ニ依リ之ヲ定ム
第二條 銓衡會ハ學階論文ノ審査并ニ宗規學階教階補任規則第二條ニ依ル昇階ノ詮衡ヲ行フ

第三條 詮衡會ハ高野山大學長ヲ以テ會長トス

第四條 學階論文ノ審査ニ關シ會長ハ必要ニ應シ若干名ノ主査員ヲ定ムルコトヲ得

主査員ハ詮衡會員以外ノ高野山大學教授又ハ其他ノ學者ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第五條 主査員ハ論文審査ニ關シ口答試験ヲ行フコトヲ得、此場合詮衡會員ハ立會スヘ

キモノトス

第六條 主査員ハ詮衡會ニ於テ審査ノ結果ヲ報告スルモノトス

第七條 宗規學階教階補任規則第七條第八條ニ依ル推薦ハ論文若クハ論文ニ代ルヘキ材料ヲ提供セシムルモノトス

第八條 詮衡會ハ會員三分ノ二以上出席スルニアラサレハ成立セサルモノトス

但司講ニ補任スル詮衡ノ場合ニ限リ文書ヲ以テ其意見ヲ徵シ詮衡會ニ代フルコトヲ得

第九條 詮衡會ノ決議ハ出席者三分ノ二以上ノ同意ニ由ル

第十條 詮衡會ハ必要ニ應シテ之ヲ開會ス

附 則

第十一條 詮衡會ハ本宗以外ノ僧侶ニシテ本宗教育機關ニ關係アル者ニ就キ特ニ本宗教師ニ準シテ學階授與ヲ申請スルコトヲ得

法
衣〔宗規法衣規則〕

宗規法衣規則

昭和六年三月二十日教令第六十一號全更

第一條 本則ハ宗憲第十一章第七十五條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 本宗僧侶ノ被着スヘキ法衣ノ種類ハ左ノ如シ

袈裟

大衣、七條、五條、衲袈裟、甲袈裟、紋白、小五條

正衣

袍裳、素絹、直綴、褌衫、略衣

副衣

帽子、表袴、指貫、切袴

第三條 色衣ハ教師等級ニ應シ左表ノ區分ニ從ヒ其被着ノ允可ヲ受クヘキモノトス

但大僧正ノ被着ハ允可ヲ要セス

教師等級	大僧正	權少僧正	試補以上
色衣	緋色	紫色	鳶色

第四條 末教師ノ被着スヘキ正衣ハ黒色又ハ鼠色トシ袈裟ハ香色又ハ茶色ニ限ル

第五條 教師ハ總テ法會公式ノ席ニ於テ資格相當以内ノ色衣ノ外被着スルコトヲ得サル

モノトス 但黒色ハ僧侶ノ通衣トシ如何ナル場合ニモ之ヲ被着スルコトヲ得

第六條 總大本山内ニ於テ法衣ノ種類及被着ニ付本則規定ノ外ニ特種ノ慣例アルモノハ之ニ依ルモノトス但其他ニ於テ法脈ノ傳統及法儀ノ性質ニ依リ規定ノ色衣以外ノ法衣ヲ着用スル慣例アルモノモ亦之ニ準ス

第七條 教師相當ノ色衣ノ允可ヲ得タルモノ降級以上ノ懲誡處分ニ依リ其相當資格ヲ失ヒタルトキハ當然允可ノ効力ヲ失フモノトス

第八條 色衣ノ允可ハ相當教師補任ト共ニ宗立大中學生ハ其學長其他ハ支所長ヨリ具狀スルモノトス

第九條 本則施行ニ關シ必要ナル規程ハ教令ヲ以テ之ヲ定ム

檀徒及信徒

〽

宗規檀信徒取扱規則

宗規檀信徒取扱規則

昭和四年一月三十一日教令第四十一號修正

第一條 本則ハ宗憲第十二章第八十條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 寺院ニ備フヘキ檀徒名簿信徒名簿ニハ檀信徒ノ族籍姓名及職業ヲ詳録スヘキモノトス

第三條 新ニ檀徒又ハ信徒ニ加入センコトヲ望ム者アルトキハ住職ニ於テ本人ノ志望ヲ認諾シタル上前條名簿ニ記入スヘシ

第四條 甲寺檀徒ニシテ乙寺檀徒ニ轉換センコトヲ望ム者アルトキハ甲寺住職ノ承諾ヲ得タル者ハ直ニ前條ノ手續ヲナスコトヲ得

甲寺住職ニ於テ異議アル者ニ付テハ其檀徒ニ係ル緊急ノ法會ハ假ニ乙寺住職ニ於テ處辨スルコトヲ得

第五條 左ノ一ニ該當スルモノニシテ管長ノ認可ヲ經タルトキハ住職ニ於テ檀徒又ハ信徒タルコトヲ拒絶シ名簿ヲ削除シ其旨本人ニ告知スヘシ

一、宗意安心ニ反シ異議ヲ唱フル者

二、本山又ハ所屬寺院ノ維持保存ヲ妨害スル者

三、總大本山並ニ宗務本支所職員及所屬寺院住職ノ職務ヲ妨害スル者

四、寺院所有ノ財産ニ對シ不正ノ行爲ヲナス

五、寺院住職進退ノ際私意ヲ插ミテ之ヲ妨害スル者

六、正當ノ手續ヲ經サル寺債ニ對シ同意違署シタル者

第六條 寺院ニ於テ檀徒總代若ハ信徒總代ヲ定メタルトキハ其都度住職ヨリ所轄市町村長並ニ宗務本支所ニ届出ツヘシ

第七條 住職ハ毎年十二月末日現在ニ依リ檀徒戸數並ニ員數及信徒ノ員數ヲ調査シ所轄支所ヲ經テ宗務所ヘ届出ツヘシ

第八條 本則施行ニ關シ必要ナル細則ハ教令ヲ以テ之ヲ定ム

賞

罰

宗規懲誠規則

宗規褒賞規則

宗規褒賞規則

昭和四年一月三十一日教令第四十一號修正

第一條 本則ハ宗憲第十三章第八十三條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 左項ノ一ニ該當スル行爲アル者ニシテ教師ナルトキハ特遇狀ヲ授與シ教師一級ヲ昇補シ教師ニ非サル僧侶ナルトキハ法衣ヲ授與シ檀信徒ナルトキハ物品ヲ授與ス

一、宗派ノ事務又ハ僧侶ノ教育又ハ布教上顯著ナル功績アル者

二、國家又ハ社會公益ノ爲ニ盡瘁シ宗門ノ光榮ヲ發揮セシ者

三、學術德行衆ニ超ヘ他ノ模範トナル者

四、寺院ヲ建立シ又ハ永世維持ノ方法ヲ確定セシ者

五、高野山大師教會員五千人以上募集シタル者

第三條 左項ノ一ニ該當スル行爲アル者ニシテ僧侶ナルトキハ法衣又ハ物品ヲ授與シ檀

信徒ナルトキハ物品ヲ授與ス

- 一、宗派ノ事務又ハ僧侶ノ教育又ハ布教上特ニ功勞アル者
- 二、宗義其他ニ關シ有益ノ著述ヲ爲シ社會ヲ裨益シタル者又ハ社會事業ニ關シ功勞アル者

三、道念堅固ニシテ他ノ模範トナル者

四、寺院ノ修理ヲ成就シ其功績著シキ者

五、教會所ヲ新設シ維持方法ヲ確立セシ者又ハ教會員參千人以上募集シタル者

第四條 左項ノ一ニ該當スル行爲アル者ニハ物品ヲ授與ス

一、淨財又ハ田園等ヲ喜捨シテ寺門永護ノ基礎ヲ立テシ者

二、寺院堂塔ノ新築改造ノ爲拔群ノ盡力ヲ爲シ又ハ多額ノ淨財ヲ喜捨セシ者

三、宗學生ノ爲淨財ヲ喜捨シ宗義相續ヲ扶ケシ者

第五條 左項ノ一ニ該當スル者ハ賞狀ヲ附與ス

一、僧侶ノ教育又ハ布教ニ勉勵セシ者

二、三寶爲信ニシテ他ノ模範トナル者

三、宗門若ハ寺門擁護ニ功勞アル者

四、高野山大師教會支部ノ事業ニ盡力シ功勞アル者

第六條 第二條乃至第五條ニ該當スル行爲アリシ者ニシテ生前褒賞ヲ受ケサリシ者ニハ前

各條ニ依準シテ追賞ヲ行フコトヲ得

第七條 國家又ハ一宗ノ重大ナル慶事ニ際シ管長ニ於テ必要ト認メタル場合ハ前各條ノ規

定ニ拘ハラズ別ニ標準ヲ定メテ表彰ヲ行フコトヲ得

第八條 總大本山住職ハ前各條ニ該當スル褒賞ヲ行フハキ事實アリト認メタルトキハ之ヲ

管長ニ具狀スルコトヲ得

補 則

第九條 眞言宗各派ノ一ニ於テ特遇以上ノ褒賞ヲ受ケタル者ハ本宗ニ於テモ同一ノ褒賞ヲ

受ケタル者ト認ム

但待遇以上ノ褒賞ヲ行ハントスルトキハ豫メ該當本人職務上ノ關係アル宗派管長ノ同意ヲ得ルヲ要ス

宗規懲誡規則

大正十五年十二月六日教令第二十二號、昭和四年一月三十一日教令第四十一號、昭和四年十一月二十日教令第四十八號修正、昭和六年三月二十日教令第六十一號全改

第一條 本則ハ宗憲第十三章第八十三條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 宗内僧侶ニ對スル懲誡ハ別ニ規定アルモノ外本則ニ依リ之ヲ行フ

第三條 懲誡ノ科目及輕重ノ順序ヲ左ノ通り定メ加重輕減ノ場合ハ此ノ基準ニ依ルモノトス

一、一宗擯斥 僧侶ノ分限ヲ奪ヒ僧籍ヲ削除ス

二、教師黜免 教師ノ資格及學階教階ヲ褫奪ス

三、住職罷免 住職ヲ罷免シ教師等級及學階教階各一級ヲ降下ス

四、停 權 期間ヲ定メ住職權ヲ停止シ教師等級及學階教階各一級ヲ降下ス

五、降 級 教師等級及學階教階各一級又ハ數級ヲ降下ス

六、懺 悔 期間ヲ定メ指定ノ靈刹ニ於テ懺悔清行セシム

七、譴 責 其非行ヲ糾シ將來ヲ誡飭ス

第四條 左記各號ノ一ニ該當スルモノハ一宗擯斥ニ處ス

一、佛祖ノ威徳ヲ冒瀆シ信仰ヲ破壞スル行爲アリタル者

二、教義及宗祖ノ遺訓ニ背キ異說ヲ主張スル者

三、宗憲宗規ヲ紊亂シ一宗ノ治安ヲ妨害スル者

四、故意ヲ以テ管長ノ命令ヲ遵守セス又ハ之ニ反抗シタル者

- 五、濫リニ轉宗轉派若ハ分派ヲ企圖スル者
- 六、二年ヲ超ユル懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者

第五條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ教師黜免又ハ住職罷免ニ處ス

- 一、宗内公機關ノ公印文書ヲ毀棄シ又ハ偽造變造シテ之ヲ行使シ若ハ盜用シタル者
- 二、宗内公機關又ハ其職員ノ名義ヲ詐稱シ金品ノ騙取若ハ被詐名者ニ損害ヲ與フル行爲アリシ者
- 三、成規ノ手續ニ依ラス寺有ノ財産ヲ賣却讓與又ハ擔保ニ供スル等ノ處分ヲ爲シタル者
- 四、管長及總大本山住職ニ對シ侮慢暴戾ノ行爲アリタル者
- 五、二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者

第六條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ住職罷免又ハ停權ニ處ス

- 一、住職ノ任務ヲ盡サス又ハ財政ヲ紊亂シ其寺院ヲ衰頹セシムル者
- 二、寺院ヲ離レ五ヶ月以上行方不明ノ者
- 三、管長ノ認可ヲ經スシテ寺債ヲ爲シタル者
- 四、非行ニ依リ多數ノ檀徒信徒ノ歸依ヲ失シタル者
- 五、破産ノ宣告ヲ受ケタル者
- 六、三期以上ノ宗費課金ヲ怠納セル者
- 七、一年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者

第七條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ停權又ハ降級ニ處ス

- 一、住職ノ晋退ニ關シ私意ヲ以テ故障ヲ爲ス者
- 二、宗内公職員ノ職務執行ヲ妨ケタル者
- 三、宗内公職員ニ於テ公金ヲ私消シ又ハ職權ヲ濫用シ不正ノ行爲アル者
- 四、宗派又ハ總大本山及寺院若ハ團體ノ事業ニ托シ不正ノ勸財ヲ爲ス者
- 五、寺院ノ財産ヲ隱匿シ若ハ濫費シ又ハ管理ヲ怠リタル爲メ之ヲ喪失シタル者

六、公ニ他人ヲ誹毀侮辱シ又ハ虚構ノ申告ヲ爲シ之ヲ罪科ニ陷シ入レントシタル者
七、百圓ヲ超ユル罰金ノ刑ニ處セラレタル者

第八條

左記各號ノ一ニ該當スル者ハ降級又ハ懺悔ニ處ス

- 一、當然ノ職務ヲ回避シ又ハ成規ニ依ル手續ヲ怠リタル者
- 二、素行修マラス僧侶ノ體面ヲ汚損スル者
- 三、當局ノ調査及尋問ニ付虚偽ノ答申ヲ爲シタル者
- 四、檀徒信徒ノ取扱ニ關シ不正奸曲ノ行爲アリタル者
- 五、管長ノ認可ヲ得タル一山規約又ハ組合規約ニ違反シタル者
- 六、二期以上ノ宗費課金ヲ怠納セル者
- 七、百圓以下ノ罰金ノ刑ニ處セラレタル者

第九條

左記各號ノ一ニ該當スル者ハ懺悔又ハ譴責ニ處ス

- 一、正當ノ事由ナク宗機關及總大本山ノ召喚ニ應セサル者
- 二、宗内各機關其他公認ノ團體ニ納付スヘキ課金又ハ寄附金ヲ領收シ其納付ヲ怠リタル者
- 三、身分資格ヲ詐リ又ハ色衣若ハ席次ノ制規ヲ僭亂シタル者
- 四、寺院ノ本義ニ背キ濫リニ之ヲ使用シ又ハ他人ニ貸與シタル者
- 五、教育布教及公益事業ニ付其本分ヲ盡サス又ハ實行ヲ阻害スル者
- 六、拘留又ハ科料ニ處セラレタル者

第十條

左記各號ノ一ニ該當スル者ハ譴責ニ處ス

- 一、故ナク期限ヲ付シタル諸届報告ヲ怠リタル者
- 二、宗内公職員及寺院住職ニ於テ職務上ノ過誤失策アリシ者
- 三、本寺住職師僧法類其他組合寺院ニ對スル情義ヲ紊ル者
- 四、誤ツテ法規ニ觸レタル者
- 五、注意ヲ缺キタル爲メ寺院ノ堂宇ヲ燒失シ又ハ保管書類器物ヲ紛失シタル者